京都市内遺跡試掘調査概報

平成13年度

2002年3月

京都市文化市民局

写真1　平安京右京五条二坊十四町の掘立柱建物跡（北東から）

写真2　平安京左京三条三坊十二町で検出した中世地下式土坑（北東から）

写真3　平安京左京北辺三坊五町跡出土金箔瓦

写真4　平安京左京北辺三坊五町跡出土墨書土器（「廿九日」）

ご あ い さ つ

京都は，世界に誇る貴重な歴史遺産に恵まれた大都市であります。市内の埋蔵文化財包蔵地には，年代ごとに幾層にもわたり積み重ねられた歴史の重みをもつ遺跡が数多く存在しております。

これらは，我が国の歴史や文化の成り立ちを知ることができる国民共有の財産であり，将来にわたって保存していかなければなりません。

近年，土木工事等による開発行為は，これらの埋蔵文化財に少なからず影響を及ぼしておりますが，こうした状況の中で，保存と開発との調整を適切に行い，先人から引き継いだ貴重な財産を後世に伝承していくことが，現代に生きる私たちに課せられた責務であります。

さて，この度，平成13年度に本市が文化庁の国庫補助を得て実施した埋蔵文化財調査の結果をまとめた概要報告書を作成致しました。調査のうち，試掘調査は京都市埋蔵文化財調査センターが実施し，発掘調査及び立会調査は，財団法人京都市埋蔵文化財研究所へ委託し実施したものであります。

各調査の実施に当たりまして，御理解と御協力を賜りました市民の皆様をはじめ，御指導・御助言を賜りました関係機関の皆様に深く感謝申し上げますとともに，本報告書が京都の歴史を知るための一助として，お役に立てば幸いに存じます。

平成14年３月

京都市文化市民局長
中野 代志男

例　　言

1　本書は，京都市が文化庁国庫補助を得て実施した平成13成年度の京都市内遺跡試掘調査概要報告書である。なお，本書は平成13年１月から12月まで実施した試掘調査において，重要な成果を対象に概要を報告している。ただし，発掘調査を指導したものについては，発掘調査報告書を待つこととし，一覧表にのみ掲載している。

2　試掘調査を実施した総ての地区・所在地・調査日・調査概要については，試掘調査一覧表に掲載（39～42頁）している。なお，各章表題の番号と調査一覧表の番号並びに図版の番号は対応させている。

3　本文の執筆分担は，本文の末尾に記している。

4　本書に使用した地図は，本市の都市計画局発行の都市計画基本図（縮尺1/2,500）を複製して調整したものを掲載している。なお図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。
図版1 ～13　1/8,000　　図版14～19　1/10,000

5　本書に使用した土壌色名は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帳』に準じた。

6　遺物整理にあたっては，丸山裕見子・鵜飼隆司・塩崎美保・塚本邦子・永井久美男・梅川光隆の協力を得た。

7　巻頭に掲載した金箔瓦及び墨書土器は発掘調査を指導しており，一覧表25を参照のこと。

8　本書作成，調査実施にあたっては，京都市埋蔵文化財調査センターが担当し，次の機関の協力を得た。

京都市文化市民局文化部文化財保護課・（財）京都市埋蔵文化財研究所

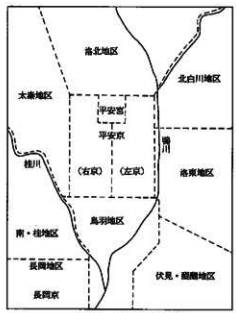


図１　調査地区制図

目　次

頁

Ⅰ　試掘調査の概要 …… 1

Ⅱ　平安宮 …… 6

1　梨本跡・聚楽第跡（上京区下長者町通智恵光院西入山本町100） …… 6

Ⅲ　平安京左京 …… 8

1　三条三坊十二町跡（中京区烏丸通場之町905他） …… 8

2　四条二坊九町跡（中京区三条通堀川東入橋東詰町２） …… 13

3　六条一坊二町跡（下京区中堂寺坊城町37-1他17筆） …… 15

4　六条三坊七町跡（下京区室町通五条上る坂東屋町 270，271，274） …… 17

Ⅳ　平安京右京 …… 20

1　二条二坊十三町跡・西ノ京遺跡（中京区西ノ京南上合町42，43） …… 20

2　五条二坊十四町跡・西院遺跡（右京区西院矢掛町29-1，30-1） …… 23

3　六条四坊十町跡・西京極遺跡（右京区西院月双町95） …… 26

Ⅴ　その他市内遺跡 …… 28

1　常盤東ノ町古墳群・仁和寺院家跡・村ノ内町遺跡（右京区常盤東ノ町16-4の一部） …… 28

2　岩倉幡枝町内範囲確認調査（左京区岩倉幡枝町他一ヶ町） …… 31

3　北野廃寺跡・北野遺跡（北区小松原南町33） …… 35

Ⅵ　試掘調査一覧表 …… 39

報告書抄録 …… 43

図 版 目 次

図版 1　平安宮
図版 2　左京北辺・一・二・三条　一・二坊
図版 3　左京北辺・一・二・三条　三・四坊
図版 4　左京　四・五・六条　一・二坊
図版 5　左京　四・五・六条　三・四坊
図版 6　左京　七・八・九条　一・二坊
図版 7　左京　七・八・九条　三・四坊
図版 8　右京北辺・一・二・三条　三・四坊
図版 9　右京北辺　一・二・三条　一・二坊
図版10　右京　四・五・六条　三・四坊
図版11　右京　四・五・六条　一・二坊
図版12　右京　七・八・九条　三・四坊
図版13　右京　七・八・九条　一・二坊
図版14　和泉式部町遺跡・門田町遺跡・史跡名勝嵐山・法金剛院境内・常盤仲之町遺跡・常盤東ノ町古墳群・仁和寺院家跡・村ノ内町遺跡
図版15　植物園北遺跡・白河街区跡・岡崎遺跡・大宮北山ノ前瓦窯跡・北野遺跡・北野廃寺跡・散布地・八幡古墳群・北白川廃寺
図版16　六勝寺跡・山科本願寺南殿跡・中臣遺跡・安朱遺跡・坂尻須恵器窯跡・大塚遺跡
図版17　伏見城跡・深草寺跡・史跡醍醐寺境内・下津林遺跡・大藪遺跡・上久世遺跡・中久世遺跡
図版18　上鳥羽遺跡・上鳥羽城跡・鳥羽離宮跡・下鳥羽遺跡
図版19　長岡京跡

挿図目次

頁

図1　調査地区割図・・・・・・・・・・例言
図2　調査地と聚楽第本丸及び西之丸南堀の位置関係・・・・・・・・・・6
図3　トレンチ位置図・・・・・・・・・・7
図4　3T堀状遺構西壁土層図・・・・・7
図5　調査位置図・・・・・・・・・・・・8
図6　トレンチ位置図・・・・・・・・・・8
図7　2トレンチ東壁土層断面図・・・・9
図8　2トレンチ遺構図・・・・・・・・・10
図9　出土遺物実測図・・・・・・・・・・11
図10　調査位置図・・・・・・・・・・・・13
図11　トレンチ位置図・・・・・・・・・・13
図12　堀川小路東側溝南壁土層図・・・・14
図13　出土土器・・・・・・・・・・・・・14
図14　調査位置図・・・・・・・・・・・・15
図15　トレンチ位置図・・・・・・・・・・15
図16　六条坊門小路土層図・・・・・・・・16
図17　出土遺物・・・・・・・・・・・・・16
図18　調査位置図・・・・・・・・・・・・17
図19　遺構平面図・・・・・・・・・・・・17
図20　室町小路西側溝部分北壁土層図・・18
図21　出土遺物・・・・・・・・・・・・・19
図22　調査位置図・・・・・・・・・・・・20
図23　トレンチ位置図・・・・・・・・・・20
図24　井戸3土層断面図・・・・・・・・・21
図25　井戸3出土遺物・・・・・・・・・・22
図26　調査位置図・・・・・・・・・・・・23
図27　トレンチ位置図・・・・・・・・・・23
図28　検出遺構平面図・・・・・・・・・・24
図29　出土遺物・・・・・・・・・・・・・25
図30　調査位置図・・・・・・・・・・・・26
図31　トレンチ位置図・・・・・・・・・・26
図32　土層断面図・・・・・・・・・・・・27
図33　出土遺物・・・・・・・・・・・・・27
図34　常盤東ノ町古墳群の分布と調査位置図・・・・・・・・・・・・・・28
図35　遺構平面図・・・・・・・・・・・・29
図36　4号墳石室平面図・断面図・・・・30
図37　石室内出土土器実測図・・・・・・30
図38　調査位置図・・・・・・・・・・・・31
図39　トレンチ位置図・・・・・・・・・・32
図40　調査位置図・・・・・・・・・・・・35
図41　5トレンチ土層断面図・・・・・・35
図42　トレンチ位置図・・・・・・・・・・36
図43　6トレンチ・溝1部分土層断面図・37
図44　溝1出土遺物・・・・・・・・・・・37

表目次

頁

表1　年次別試掘調査実施件数表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
表2　試掘調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39～42

写 真 目 次

頁

写真１　平安京右京五条二坊十四町跡の掘立柱建物跡（北東から）・・・・・・・・・巻頭図版
写真２　平安京左京三条三坊十二町跡で検出した中世地下式土坑（北東から）・・・巻頭図版
写真３　平安京左京北辺三坊五町跡出土金箔瓦・・・・・・・・・・・・・・・・巻頭図版
写真４　平安京左京北辺三坊五町跡出土墨書土器（「廿九日」）・・・・・・・・・巻頭図版
写真５　３Ｔ堀状遺構（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
写真６　１トレンチ全景（西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
写真７　土壙24遺物出土状況（北東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
写真８　土壙23（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
写真９　遺構検出状況（北東から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
写真10　４Ｔ六条坊門小路（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
写真11　方形土壙検出状況（西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
写真12　柱穴７半截掘削状況（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
写真13　１トレンチ全景（西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
写真14　４号墳石室（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
写真15　調査区全景（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
写真16　１トレンチ全景（西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
写真17　11トレンチ全景（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
写真18　16トレンチ全景（北から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
写真19　23トレンチ全景（南から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
写真20　６トレンチ・溝１完掘状況（北西から）・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

Ⅰ　試掘調査の概要

1　調査の概要

京都市内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地（以下，遺跡という）は約570箇所あり，この遺跡内で行われる各種土木工事は，近年の景気低迷によって年々減少気味であるが，それでも前年度は1,010件の届出・通知があった。

京都市においては，長岡京跡，平安京跡，伏見城跡といった広範な都市遺跡が，市街地と重複しているところに遺跡の特徴が表れている。この遺跡内での土木工事に対して京都市埋蔵文化財調査センター（以下，センターという）では，遺跡の重要度に即して工事内容（開発面積や構造など）を検討することよって，「慎重工事」「立会調査」「試掘調査」「発掘調査」の４種の行政指導を行っている。この内，立会調査については，（財）京都市埋蔵文化財研究所に業務委託し，年間400箇所以上の調査が行われている。また，市内の行政発掘を行う機関としては，（財）京都市埋蔵文化財研究所，（財）古代學協會，京都府京都文化博物館があり，民間調査団体には関西文化財調査会（代表　吉川義彦），古代文化調査会（代表　家崎孝治）などが実績を積んでいる。

当センターでは，遺構の残存状況や遺跡の範囲確認さらに発掘調査実施の有無を判断するための試掘調査を事業主の協力を得て，平成３年度以降，直営で実施している。また，本市文化財保護課の指導のもとに行われる史跡指定地内での現状変更に伴う試掘調査についても，文化財保護課と共同で実施している。

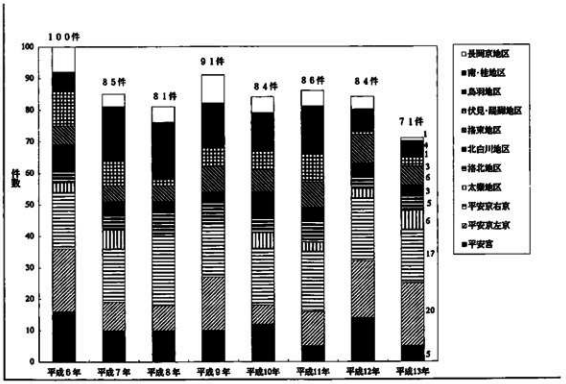


表１　年次別試掘調査実施件数表

試掘調査の件数は，平成６年の100件をピークとして以後80件台にまで減少している。平成13年は１月11日から12月25日までの間に71件の調査を実施した。この内，平成12年度第４四半期内が20件，平成13年度第１～３四半期内が51件である。調査の原因となる工事の内容は，バブル期の不良債権処理や会社倒産処理に伴うマンション建設や宅地開発も多く，世相を反映している。

2　各地区の調査概要（39～42頁の試掘調査一覧表・図版1～19参照）

京都市内を11の地区に分けて各地区内の調査概要を以下に概説する。

平安宮地区

平安宮内では，梨本，宮内省，掃部寮，大蔵省の該当地で，５箇所の調査を実施した。

宮内省の調査（No.22地点）では，南面築地の南側溝と考えられる東西方向の溝状遺構を検出したことから，国庫補助による発掘調査を８月に実施した。調査の結果，当初東西溝と判断した遺構は土壙であったことが判明したが，新たに東西溝を検出したことにより，宮内省の位置復元の貴重な資料を得ることができた。

また，大蔵省のNo.23地点では，大蔵省南面築地の内溝に推定される東西溝を検出した。それ以外の所では，平安宮に関連する遺構は認められなかったが，豊臣秀吉の築造した聚楽第の堀と考えられる深い落ち込みを，梨本跡（No.１地点）及び大蔵省跡（No.24地点）で検出した（本文掲載）。

平安宮内の発掘調査は，JR山陰線の高架下における側道建設に伴って，（財）京都市埋蔵文化財研究所（以下，特にことわりがない場合の発掘調査は，（財）京都市埋蔵文化財研究所が担当している。）が豊楽殿跡，御井跡，左馬寮跡を調査したが，後世の削平もあって顕著な遺構は発見されなかった。

平安京左京地区

京都市の都心部と重なる地域で，本年は20箇所で調査を実施した。その大半が高層マンション建築に先立つものであり，６件について発掘調査を指導し，２件については設計変更を指導した。

北辺三坊五町（No.25地点）では，中世から桃山期にかけての土壙や溝などを多数検出したことから設計変更を指導した。

二条三坊一町（No.26地点）の市立梅屋小学校跡地の調査では，平安時代から中世にかけての土壙や柱穴を多数検出したことから発掘調査を指導し，京都府京都文化博物館が調査を行っている。

三条三坊十五町（No.29地点）及び三条四坊十一町跡（No.31地点）は，共に御池通に面した場所で，No.29地点では平安時代から中世にかけての遺構・遺物を良好な状態で検出したことから発掘調査を指導したが，現在工事計画自体が中断したことにより発掘調査も延期されたままである。No.31地点の調査では，中世の土壙や溝などを多数検出したことから古代文化調査会が発掘調査を実施した。三条三坊十二町（No.28地点）では，平安時代の土壙や中世の地下式土坑（本文掲載）などを検出した。

四条二坊九町（No.33地点）では，大半が旧建物の攪乱であったが，三条大路南側溝や堀川小

路東側溝を部分的に検出（本文掲載）した。四条二坊十四町（No.34地点）は，市立本能小学校の跡地であり福祉施設建設に伴って調査を行い，平安時代から中世に至る土壙・井戸・柱穴等を多数検出したことから発掘調査を指導している。

五条通に面した六条一坊二町の調査（No.36地点）では，六条坊門小路北側溝を検出（本文掲載）した。また五条室町を上った六条三坊七町（No.38地点）では，宅地内専用道路予定地から室町小路西側溝等を検出（本文掲載）したため設計変更を指導した。

京都駅周辺の八条三坊十五町（No.39地点）では塩小路路面や柱穴を，また八条四坊一町（No.4地点）では中世の土壙や溝などを発見したことから，それぞれ古代文化調査会，関西文化財調査会が発掘調査を実施した。

左京地区内での主な発掘調査では，平成10年度から継続して行われてきた京都御苑内での迎賓施設建設に伴う公家屋敷跡の調査が本年をもって終了した。また三条四坊四坊跡（中京区東洞院通姉小路下る蠱華院前町）の初音中学校跡地の調査では，中世の遺構が濃厚な状態で検出された。

平安京右京地区

右京地区では17件の試掘調査を実施した。四条一坊十二・十三町（No.43地点）の調査では，南北小路である西樋司小路の東西両側溝を検出したことから発掘調査を指導した。また五条三坊十一町（No.45地点）では，地表下1.2mで平安時代の溝や柱穴を検出したことから設計変更を指導した。

本文掲載の調査としては二条二坊十三町（No.41地点），五条二坊十四町（No.44地点），六条四坊十町（No.48地点）がある。二条二坊十三町の調査では，宅地内専用道路予定地から平安時代中期の井戸一基と柱穴を検出した。五条二坊十四町の調査では，平安時代前期の掘立柱建物を検出したことから調査期間を延長して建物跡の調査を行った。六条四坊十町の調査では，平安時代前期の遺物包含層とその上面で土壙や溝を検出した。

史跡西寺跡内においては3件の調査を行ったが，寺造営に関連する整地層の確認程度に終わっている。これ以外の調査では，湿地や池の検出例が多かったが，六条三坊十六町（No.47地点）の調査では，湿地堆積の下層，地表下3mと右京域では非常に深いところから平安時代前期の遺物包含層を確認した。

この右京内では，平安京内の調査事例として最大面積となる六条三坊七・八・九・十町の4町にまたがる発掘調査が（財）古代學協会によって行われた。この調査では馬代小路と樋口小路の交差部の検出や，宅地内においては大規模な掘立柱建物や蒸籠組の大型井戸など上流階級の邸宅と考えられる平安時代前期の遺構を発見した。JR二条駅前の再開発区域では，朱雀大路の西側溝が80mにわたって検出され，右京職の北西隅では，三条坊門小路と西坊城小路の交差部を良好な状態で検出している。

太秦地区

この地区では，6件の試掘調査を実施した。常盤東ノ町古墳群内での店舗建設に伴う調査

(No.10地点)では，古墳時代後期の古墳石室を検出したことから，設計変更を指導した（本文掲載)。その他，宅地開発に伴って，常盤仲之町，門田町遺跡，和泉式部町遺跡を調査したが顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

太秦地区の発掘調査には，前年度の試掘調査によって雨落溝を検出したことから発掘調査を指導した双ヶ岡東側の仁和寺院家跡がある。この調査では，平安時代後期の仁和寺院家の一つ浄光院の「千手堂」に推定される御堂を明らかにしている。

法蔵寺遺跡調査会による乾山窯の学術調査は今年で２年目を迎え，窯本体の検出には至っていないが，陶器片や窯道具などを多数発見している。

洛北地区

植物園北遺跡で２件，岩倉幡枝町内，北野廃寺，大宮北山ノ前窯跡でそれぞれ１件の調査を行った。岩倉幡枝町内の調査（No.11地点）は前年度からの継続で実施した土地区画整理事業に伴うものであるが，顕著な遺構は検出できなかった（本文掲載)。ヴィアトール学園の学校建設に伴う北野廃寺の調査（No.14地点）では，20m以上の幅がある南北自然流路を検出し，緑釉陶器，須恵器，瓦などが出土した（本文掲載)。２件の植物園北遺跡の調査では，いずれも砂礫堆積のみで住居跡などの遺構は発見できなかった。

北白川地区

六勝寺跡，白河街区跡，北白川廃寺でそれぞれ１件の調査を行った。

白河街区跡（No.61地点）では室町時代の池状遺構や土壙を検出したことから発掘調査を指導した。六勝寺関連では得長寿院の推定地（No.15地点）を調査した。この敷地の一画には，平成元年に試掘調査し，寺に関連する柱穴などを検出したため設計変更をして現在，事務所が建っている。今回の調査地では大半が近代の攪乱であったが，平安時代の瓦を含む整地層を確認したことから設計変更を指導した。

北白川廃寺の調査（No.60地点）は，狭い家の庭先しか調査できなかったため，再度工事中に立会調査を実施した。

洛東地区

山科本願寺南殿跡で２件，安朱遺跡，大塚遺跡，坂尻須恵器窯跡，中臣遺跡でそれぞれ１件の調査を行った。

山科本願寺南殿跡では，敷地が重複する場所で２回の試掘の調査（No.63・64地点）を行い南殿の内堀を検出したことから，国庫補助による発掘調査を実施した。この発掘調査によって土塁，内堀，櫓門などを明らかにした。

JR山科駅前の安朱遺跡の調査（No.62地点）では，時期不明の土壙や流路などを検出して調査を終えた。これ以外のこの地区での調査では顕著な遺構は発見できなかった。

伏見・醍醐地区

伏見城跡，史跡醍醐寺境内，深草寺跡でそれぞれ１件の調査を行った。

伏見城跡の調査（No.16地点）は，外堀の北西隅に位置する場所で物見櫓などが想定される所

であったが，整地層の検出に止まった。醍醐寺，深草寺の調査では，共に寺に関する遺構・遺物は発見できなかった。

（財）京都市埋蔵文化財研究所が試掘調査を実施した伏見区深草大亀谷の土地区画整理に伴う伏見城跡の調査では，桃山時代から江戸時代前期の町屋を検出したことから発掘調査を指導した。また，史跡栢杜遺跡の隣接地を範囲確認のため国庫補助によって発掘調査し，寺域の西限と考えられる段差を検出することができた。

前年度から引き続いて今年も橘女子大学が学術調査を行っている法琳寺跡では，初めて堂宇の礎石を発見し，伽藍配置の解明へ大きな成果を得ている。

鳥羽地区

この地区では下鳥羽遺跡で１件の調査（No.69地点）を行い，河川の氾濫堆積の上層に土師器や須恵器の小片を含む泥砂層の堆積を確認しただけであった。

鳥羽離宮跡から下鳥羽遺跡にかけて遺跡の中央を南北に貫く油小路通において，高速道路の橋脚建設に伴う発掘調査を５箇所で実施している。いずれの調査区も100㎡程度の小規模な発掘調査であったが，鳥羽離宮の南端部や北端部の従来の調査成果を補足する上で貴重な成果を得た。

南・桂地区

中久世遺跡，大藪遺跡，上久世遺跡，下津林遺跡でそれぞれ１件の調査を行った。

中久世遺跡（No.18地点）では平安時代以降の流路や溝，柱穴などを検出した。

大藪遺跡（No.19地点）では弥生時代の掘立柱建物，長岡京期の掘立柱建物を耕作土直下で検出したことから発掘調査を指導した。発掘調査は大藪遺跡発掘調査団（主任調査員　小泉信吾）が担当し，弥生時代の掘立柱建物が２×４間（一間約2.8m），側柱だけの構造で，柱の直径が約30cm，柱根が80cmほどの深さまで据え付けられていたことから，かなり軒高の高い特殊な建築物であることが判明した。

自衛隊桂駐屯地内の8,000㎡を対象にした下津林遺跡の調査（No.71地点）では，後世の削平が著しいのか，時期不明の溝を２条検出しただけであった。

長岡京地区

長岡京内で１件の調査（No.20地点）を実施した。この調査は，工場操業中に小規模なトレンチを３箇所に設定し，その内の一箇所から地表下2.8mで長岡京期と思われる柱穴を認めたため設計変更を指導した。

（財）京都市埋蔵文化財研究所が実施した街路建設に伴う長岡京跡北西部の試掘調査では，古墳時代の竪穴住居跡や柱穴，縄文時代晩期の包含層など新たな遺跡の発見に繋がる大きな成果を得ている。

（長谷川 行孝）

Ⅱ-1　平安宮梨本跡・聚楽第跡　No.1

1　調査経過

調査地は，上京区下長者町通智恵光院西入山本町100他に所在し，智恵光院通と下長者町通の交差点北西角を占める。当該地周辺は，平安宮内の別宮として築かれた梨本院に相当しており，天長9年（832）の淳和天皇による内裏修理のための遷幸や，仁寿3年（853）の文徳天皇の遷幸等が知られている[1]。一方，豊臣秀吉が天正14年（1586）に築城を開始した聚楽第の範囲にも含まれており，集合住宅の建設に先立ち，平成13年（2001）2月7日に試掘調査を実施した。その結果，聚楽第の堀跡と考えられる遺構を検出したのでここに報告する。

2　遺　構

計画建物の中央部に調査区を3箇所設定した。北から順に1トレンチ（1T），2トレンチ（2T），3トレンチ（3T）となる。いずれのトレンチも地表下約1.5mまで近現代の盛土があり，その下層には堀の埋土と考えられる泥土の堆積が認められた。三つの調査区の合計面積は25㎡であり，調査区の規模はそれぞれ，2.9m×1.65m（1T），5.3m×1.45m（2T），8.9m×1.42m（3T）となる。

1T，2Tともに地表下3mまで掘削し，泥土の堆積が続くことを確認したが，湧水著しく掘削継続を断念した。

3Tで検出された堀跡は，下長者町通との境界から約7m，地表下約1.5mから始まり，同じく道路境界から約8.5mで急激に深くなる。また，敷地内で行われたボーリング調査では，地表下約10mで支持層が確認されており，堀の深さもそこまで続くと考えられる。

堀跡埋土の円礫を多く含む暗青灰色砂層は硬く締まっており，軟弱な地盤を宅地化するために整地したと考えられる。

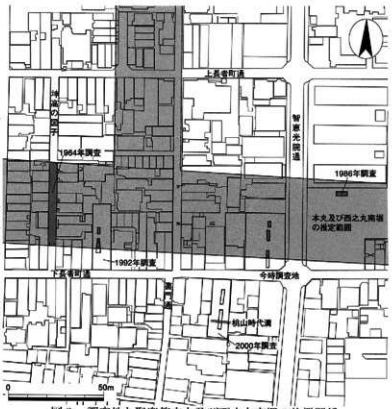


図2　調査地と聚楽第本丸及び西之丸南堀の位置関係
（1：2,000，京都市発行1：500図を調整）

3　聚楽第本丸南辺の復元

検出した堀跡は，聚楽第本丸を巡る内堀南辺に相当すると考えられる。その根拠は，3Tで検出した堀跡南肩部分が，昭和39年（1964）に坤高の図子で確認された幅43.5mの「濠址」[7]南肩，並びに平成4年（1992）に検出された堀状遺構[8]の南肩と真東西から南に約4度振ったラインで繋がること，このラインと幅43.5mで復元した堀の北限との範囲内で，他にも3箇所の湿地状堆積が確認されていることである[9]。

また，元和末頃作図の『京都図屏風』[3]に描かれた聚楽第本丸南辺及び西之丸南辺が下長者町通であることも，この復元を裏付ける。今後は，この堀の北限を確認することでより精度の高い復元が行えると考える。

（馬瀬 智光）

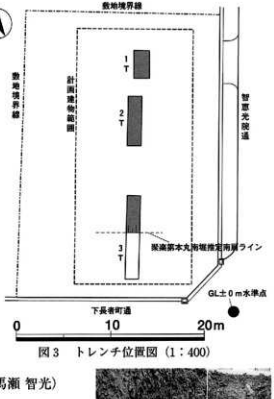


図3　トレンチ位置図（1：400）

写真5　3T濠状遺構（南から）

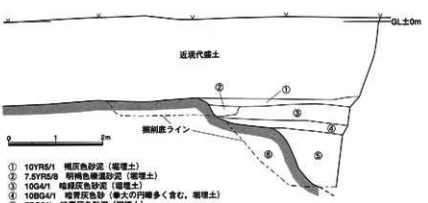


図4　3T堀状遺構西壁土層図（1：80）

註

1）野口孝子　「桀本院」『平安時代史事典』（財）古代学協会・古代学研究所編集（株）角川書店発行　1994年）1821頁

2）大石良材　「平安宮跡発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報　1965』（京都府教育委員会　1965）

3）『京都市内遺跡試掘調査概報　平成4年度』（京都市文化観光局　1993年）の地点15

4）「平安宮桀本」『昭和61年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（（財）京都市埋蔵文化財研究所　1989），『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和63年度』（京都市文化観光局　1989年）の地点7，『京都市内遺跡試掘調査概報　平成12年度』（京都市文化市民局　2001年）の地点23の3調査で確認されている。

5）『慶長昭和京都地図集成－1611（慶長16）年～1940（昭和15）年－』（大塚隆編集　柏書房（株）1994年）

Ⅲ-1　平安京左京三条三坊十二町跡　No.28

1　調査経過

調査地は，中京区烏丸通場之町905他で，烏丸三条交差点の北西に位置している。敷地は東西に細長く（東西幅約60m，南北間口約10m），その東端は烏丸通に，西端は両替町通にそれぞれ面している。

平安京の条坊復元によると左京三条三坊の十二町内に位置している。十二町は，その四面が三条大路，烏丸小路，姉小路，室町小路によって区画された，大路に面する一等地である。左京三条三坊内は，平安時代の中期から末期にかけて有力貴族の邸宅や皇族の御所が多く造営された地区である。この十二町には，平安時代中期に藤原頼通の妻である祇子の邸宅が在ったとされる。平安時代の末期，院政期になると藤原基隆が邸宅を整備して白河法皇へ献上して以後，法皇や鳥羽天皇，鳥羽天皇の中宮待賢門院が御所（三条西殿）として使用した。また，白河法皇は十二町の東隣りの十三町にも三条東殿と呼ばれた御所を構え，京内における拠点として利用している。

この三条烏丸界隈では，比較的発掘調査事例も多く，十二町内では調査地の南側に建つオフィスビル建設に先立って，（財）古代學協會が昭和56年に発掘調査[1]を実施している。この調査は，十二町の東南隅に位置し，平安時代から江戸時代

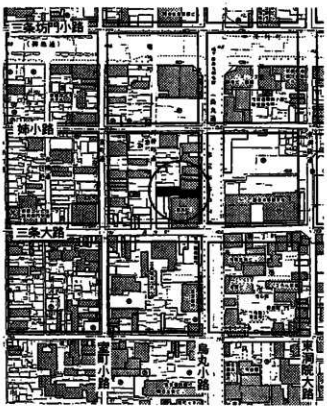


図5　調査位置図　(1：5,000)

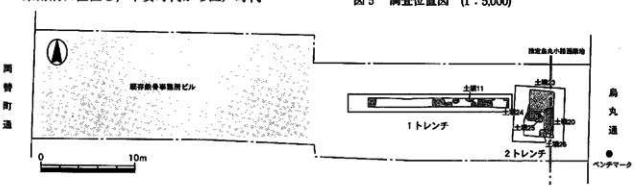


図6　トレンチ位置図　(1：400)

までの変遷が辿れる三条大路の北側溝や鎌倉時代の烏丸小路の西側溝を検出しているものの，院御所に関連する施設は，中近世の遺構によって寸断されたためか，顕著な遺構は発見されていない。

今回の調査は，当地に専門学校の建設が予定されたことによって実施したものである。平成13年10月23日の試掘調査当日において，敷地の西半部には鉄骨3階建て事務所ビルが建ったままの現地状況であったので，烏丸通に面した敷地東半部を対象に東西方向のトレンチ（幅2m・長さ19m）を1箇所設けて調査を行った。その結果，現地表面から2m前後の深い所で中世の土壙を多数検出したが，平安時代の遺構，遺物は検出できなかった。同時に敷地の西半部に建つ事務所ビルについて，その基礎がどの程度の深さまで入っているのかを確認するため，建物の際を掘削した結果，地表面から2.5m以上まで掘り込まれていることが判明し，この建物が建っている部分については，遺構面が既に削平されているとの判断材料を得た。

写真6　1トレンチ全景　（西から）

これらの調査所見から，中世の遺構については，その残存状況は良好であるが，遺構が2m以上の深い位置に存在するのに対して，敷地の間口が狭いため実質的に調査可能な範囲が非常に狭小になり，発掘調査を指導しにくい結果となった。このため，前回の調査では，烏丸小路西側溝の推定部分について，烏丸通への車両の出入りの関係もあって調査していなかったので，改めて側溝検出を主眼とした調査を11月28日から30日まで実施し，調査を終えた。この2回目の調査（2トレンチ（東西5m・南北6m））では，平安時代の土壙や室町時代の土壙を検出したが，目的の烏丸小路西側溝については発見できなかった。以下においては，主としてこの2回目の調査成果について報告する。

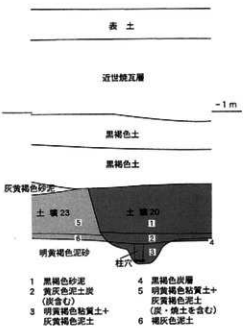


図7　2トレンチ東壁土層断面図（1：50）

2　遺構・遺物

2トレンチの基本的な層序は，地表下1.5mまでが焼瓦を多量に埋めた幕末期の整地層である。その下層には2面ほど木炭や焼土を含む黒褐色の中世整地層が認められ，地表面から2.5mほどで

残りの良い所では，地山の明黄褐色砂泥が認められた。2トレンチの実質的な調査面積は15m²ほどであるが，中近世の遺構によって削平されずに，残存していた地山面はこの内の2割ほどである。ここに報告する遺構は，このベース面において検出した。

土壙25　調査区の中央，土壙24によって西半部が壊されているが，東西約0.9m，南北約0.7mの平面形が長方形の土壙である。検出面からは，10cmほどの深さしか残存していない。埋土内からの出土品は皆無であるが，平安時代の遺構と考えられる。

土壙24　調査区の中央西寄りで検出した楕円形の土壙である。大きさは東西が約1.7m，南北は1m以上あり，深さは20cmほどである。埋土は，灰黄褐色泥土でわずかに木炭を含んでいる。土壙内からは平安時代中期の均整唐草文軒平瓦（図9-5）と体部外面に荒い平行叩き目が残る底径約21cmの須恵器鉢（図9-6）が伏せた状態で出土した。

写真7　土壙24遺物出土状況（北東から）

土壙26　調査区の南東隅で検出した土壙である。土壙20や後世の攪乱による削平が著しく，全体像は不明であるが，竪穴状の掘方が認められ，その側壁に沿って扁平な河原石を敷いていることから，後述する土壙23や土壙20と同じ性格の地下式土坑の可能性がある。出土品は無いが時期的には，土壙23や土壙20と同じ頃と考え

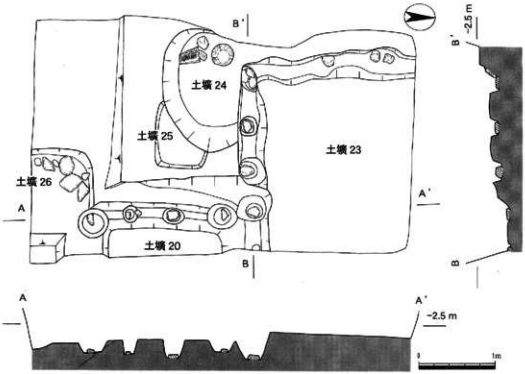


図8　2トレンチ遺構図　（1：50）

られる。

土壙23　調査区の北半で検出した，南北2.3m以上，東西1.7m以上の矩形土壙と考えられ，調査地内ではその西辺と南辺を検出した。土壙の深さは，残りの良いところでは70cmほどあり，壁面に沿って幅約40cm，深さ約10cmの溝が巡り，南辺では溝内に礎石を伴う柱穴を60cm間隔で３箇所検出した。西辺でも礎石と考えられる石を溝内の２箇所で認めた。

土壙の底面はほぼ平坦で，踏み固められたように堅く締まっている。単純な土器の廃棄穴あるいは墓などの遺構とは考えられず，何らかの構造物を伴う地下式土坑と考えられる※　土壙内の埋土からは，土師器皿（図９-1），須恵器椀（2），灰釉陶器椀（3），

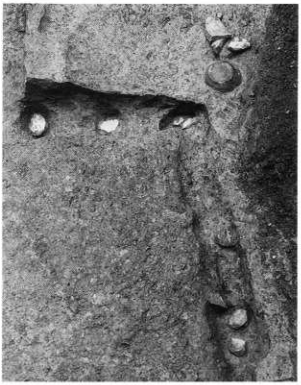


写真８　土壙23（北から）

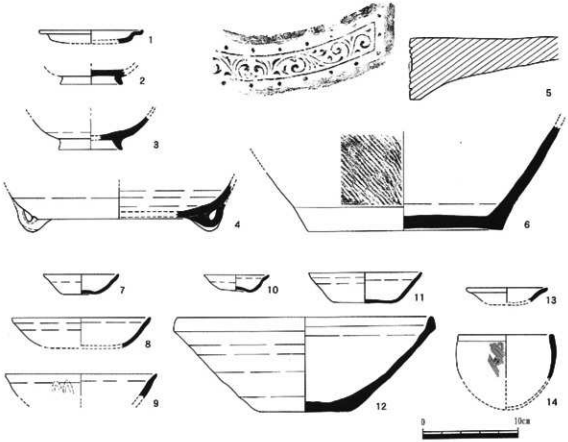


図９　出土遺物実測図　（1：4）

須恵器鉢（4）など平安時代中期の土器類が多数出土しているが，遺構自体は室町時代前期と考えられる。

土壙20　調査区の中央東寄りで検出した，土壙23と同じ構造の地下式土坑である。南北長は2.8mあり，西壁に沿った幅30～40cmの溝内からは，柱穴を5箇所確認した。柱穴の間隔は50～65cmあり，いずれも穴の底に河原石などを利用した礎石を置いている。北辺の調査区壁際で検出した柱穴は，柱当りの部分が直径10cmほどの空洞となって残っていた。土壙の深さは70cmほどあり，土壙23と同様に床面は堅く締まり，その直上に薄い炭層の堆積が認められた。土壙内からは土師器皿（図9-7・8），青磁椀（9）など室町時代前期の土器が出土した。

土壙11　この土壙は，1トレンチの中央東寄りで検出した直径90cmほどの円形土壙である。埋土中からは，土師器皿（図9-10・11），須恵器鉢など室町時代前期の土器が出土した。

なお，図9-13・14は，1トレンチの地表下1.5～1.8mに堆積していた黒褐色砂泥層から出土した室町時代後期の土師器皿と内面がなめらかな小型丸底壺である。

3　まとめ

当該地は，平安時代末期，院政期にあっては，白河法皇の御所として利用された三条西殿の所在した所であったが，調査においては直接それに関連する遺構は，発見できなかった。

土壙23・20は，室町時代の地下式土坑である。竪穴住居状に地面を掘り下げ，周囲の壁面に沿って溝を掘り，さらに溝内に柱穴を比較的密に設けている。どの柱穴にも礎石を置いていることから，上屋構造を支える柱，床を支える束，あるいは壁面を押さえる土止め壁に用いた柱などが想像される。これらの地下式土坑が，烏丸小路にほとんど面した所に作られていることは，中世の町屋構成を考えてゆく上でのひとつの資料となろう。

（長谷川 行孝）

註

1)　下条信行・植山茂ほか『三条西殿跡』平安京跡研究調査報告第7輯（（財）古代學協會，1983年）

2)　土壙の呼称については堀内明博「穴蔵に関する遺構群をめぐって」『関西近世考古学研究Ⅲ』1992の用例を参考にした。

Ⅲ-2　平安京左京四条二坊九町跡　No.33

1　調査経過

調査地は，中京区三条通堀川東入橋東詰町２に所在し，堀川通と三条通の交差点南東角を占める。

平安京の条坊制では，左京四条二坊九町跡に相当している。同町東南隅は土地売券により11世紀末の伝領関係が分っており，また，12世紀中葉には同じく同町東部で左中将源雅通の邸宅があったことが知られている[1]。しかし，当該地を含む西半部については平安時代を通じて占有者は不明であり，集合住宅の建設に先立ち，当町の占有状況を理解するために平成13年（2001）年10月15日に試掘調査を実施した。調査の結果，室町時代に埋没した三条大路南側溝と堀川小路東側溝及び柱列を検出したので報告する。

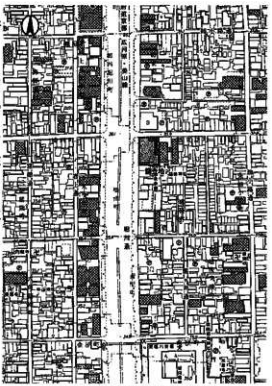


図10　調査位置図（1：5,000）

2　遺　構

既存建物の影響の少ない敷地北東部にＬ字形の調査区を設定したが，調査区北端から約11.5m以南で既存建物の基礎による攪乱が，同じく調査区東端から約4.3m以西でも基礎による攪乱が認められ，計画建物範囲の大半で遺構面が失われていることが分った。

三条大路南側溝　　側溝南肩は，現三条通との道路境界から約5.3m，九町北端の築地心から約5.9m北側で検出された。深さは34cm，幅は2.1m以上である。

堀川小路東側溝　　側溝の東肩は敷地東境界から約4.6m，九町西端の築地心よりも約1.7m内側（東側）で検出された。溝幅は2.3m，深さは約35cmである。埋土は２層

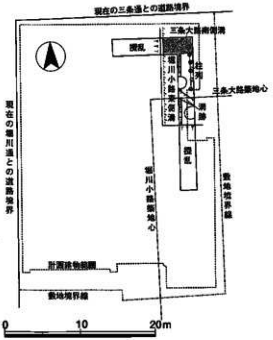
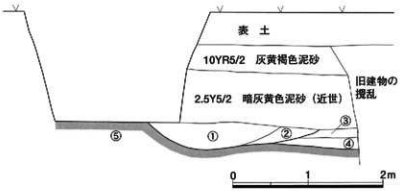


図11　トレンチ位置図（1：500）

からなり，①層からは瓦質羽釜，緑釉陶器小片等が出土した。②は木片を多く含んでおり，流水堆積であった。

堀川小路路面　明赤褐色砂礫の地山上面に礫敷きの路面が2層確認できた。

柱列　ほぼ直線に並ぶ5個の柱穴を確認した。柱穴の直径は40～45cm，柱当たりの直径も10～13cmの小規模なもので，柱間は1～1.1mあり，南北に続くことから堀川小路側に設けられた板塀の痕跡と考える。



① 7.5Y3/2　オリーブ黒色礫混泥砂（堀川小路埋土）
② 2.5GY2/1　黒色シルト（木片多く含む，堀川小路埋土）
③ 2.5GY4/1　暗オリーブ灰色礫混泥砂（路面）
④ 10Y4/1　灰色小礫混泥砂（路面）
⑤ 5YR5/6　明赤褐色砂礫（地山）

図12　堀川小路東側溝南壁土層図（1：50）

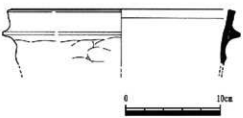


図13　出土土器（1：4）

3　遺　物

瓦質羽釜　口径24cm，残存高6.2cmの羽釜口縁部で，堀川小路東側溝の埋土①から出土した。外面は鍔下方まで，内面は口唇部まで横方向の回転ナデが施され，体部外面には指押さえの痕跡が明瞭に残っている。口縁部に向かい外傾すること，鍔が短く水平方向に延びることなどから，16世紀前半頃のものと考える。

4　まとめ

今回確認された堀川小路東側溝及び，三条大路南側溝は，通常の側溝位置と大きく異なることが特徴である。三条大路南側溝は現在の三条通に近く，戦国時代中頃には道路部分への宅地の浸食が進んでいたことを示している。一方，堀川小路東側溝や路面は，逆に九町の宅地内に入り込んでおり，今後の調査の進展を待って，戦国時代の町割りを考えていきたい。

（馬瀬 智光）

写真9　遺構検出状況（北東から）

註

1）『平安京提要』（(財) 古代學協會・古代學研究所編集　角川書店　1994年）の248～249頁。

Ⅲ-3　平安京左京六条一坊二町跡　No.36

1　調査経過

調査地は，下京区中堂寺坊城町37-1他17筆に所在し，五条通と千本通の交差点北東部分を占める。

平安京の条坊制では，左京六条一坊二町の南東角地に相当するが，平安時代の占有状況は現在のところ不明である。敷地の中央部を朱雀大路の東築地心が，敷地南端を六条坊門小路の北築地心がそれぞれ通ると予想されており，店舗建設に先立ち，平成13年（2001）8月20日に試掘調査を実施した。その結果，六条坊門小路北側溝を検出し，並びに「木工」銘の押印をもつ平瓦が出土したので報告する。

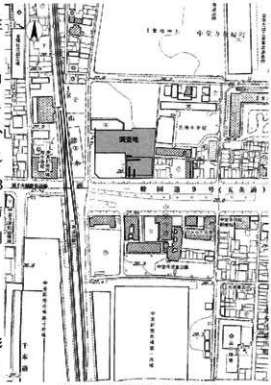


図14　調査位置図（1：5,000）

2　遺　構

計画予定地に存在した既存建物の地下遺構への影響を探るために，計画建物の北西角地に調査区（1Ｔ・2Ｔ）を設定した。調査区内では地表下２ｍ以上に達する旧建物の基礎や地中梁による攪乱が著しく，遺構検出は既存建物のない計画建物の南西部分に限定した。その際，六条坊門小路北側溝を検出する目的で，南北方向の調査区を２箇所（３Ｔ・４Ｔ）設定した。

六条坊門小路北側溝　３Ｔ南端部では地表下96cmで，４Ｔ南端部でも地表下80cmで側溝の北肩部分を検出した。この溝の北肩部分は，推定築地心から約1.2m南に位置しており，深さは25cm以上である。４Ｔの断面観察から，この側溝は埋没

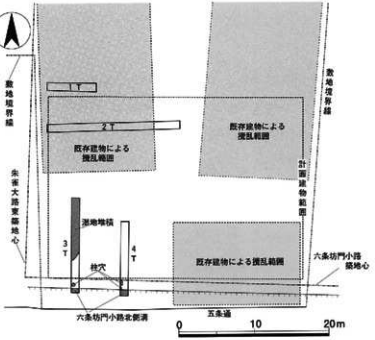


図15　トレンチ位置図（1：500）

過程の一時期，杭を打って護岸していたと考えられる。また，溝内からは白磁椀や大量の瓦片が出土した。

3　遺　物

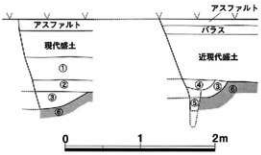
平瓦　図17－1の平瓦凹面には縦7.4cm，横3cmの「木工」の文字が押印されている。版は瓦面に2mm程度押し込まれており，類似した押印は栗栖野窯跡から採集されている[1]。

白磁椀　図17－2は玉縁をもつ白磁椀の底部と考えられ[2]，平安時代後半から鎌倉時代初頭頃のものである。

4　まとめ

今回，瓦生産も職掌の一つとしていた木工寮を示す「木工」銘瓦が側溝埋土から出土したことは，六条坊門小路もしくは直近の朱雀大路の両側に築かれた築地に葺かれていたものと考えられ，京内築地大垣の施工・管理に木工寮自らが参画し，瓦の供給も行っていたことを示すものかもしれない。

（馬瀬智光）



① 2.5GY4/1　暗オリーブ灰色泥砂
② 10YR4/3　にぶい黄褐色泥砂
③ 7.5YR4/1　褐灰色泥土
④ 10YR4/1　褐灰色泥砂
⑤ 2.5Y6/1　黄灰色砂泥（木杭跡）
⑥ 10YR6/4　にぶい黄褐色砂泥（地山）

図16　六条坊門小路土層図
（左：３Ｔ西壁，右：４Ｔ西壁，1：50）

写真10　４Ｔ六条坊門小路（北から）

註

1）『木村徒三郎収集瓦図録』（（財）京都市埋蔵文化財研究所編集・発行　1996年）の図版８の34，35がある。生産地では，同じく官営工房とされる小野瓦窯跡でも「木工」銘瓦が出土している（馬瀬智光　「小野瓦窯跡」『京都市内遺跡試掘調査概報　平成９年度』（京都市文化市民局　1998年）の図33の１。

2）（財）京都市埋蔵文化財研究所の中村敦氏からご教示いただいた。

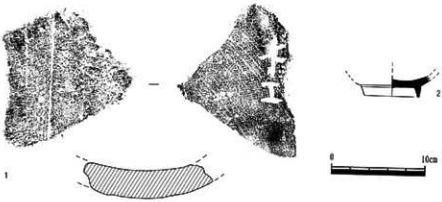


図17　出土遺物（1：4）

Ⅲ-4　平安京左京六条三坊七町跡　No.38

1　調査経過

調査地は，下京区室町通五条上る坂東屋町270,271,274に所在し，室町通と五条通との交差点から北へ約60mのところにある。

平安京の条坊では，左京六条三坊七町に相当している。当町と西隣りの六条三坊二町は，平安時代中期頃，村上天皇第七皇子の中務卿具平（ともひら）親王の別邸「千種殿」が存在したとされている。その後，室町時代後期の15世紀初頭まで，具平親王の旧跡として村上源氏久我家が代々伝領を続けていた[1]。

当該敷地の東端部には室町小路西築地心が通ると想定されており，宅地開発に先立ち，平成13年(2001) 11月14日に試掘調査を実施した。調査の結果，中世の室町小路及び宅地内内溝をはじめとする多数の遺構を検出することができたので報告する。また検出遺構は開発者の協力により地中埋設管の掘削深度を変更し，地中に遺構を保存した。

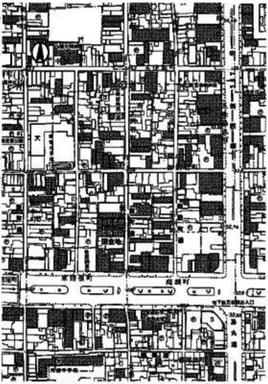


図18　調査位置図（1：5,000）

2　遺　構

敷地中央に計画された道路予定地内に幅1.4m，長さ24.7mの調査区を設定した。調査面積は34㎡である。調査区全体では織豊期以前の遺構を約30基検出した。

溝1　現室町通との境界から西約2.1mで南北方向の溝の西肩部分を

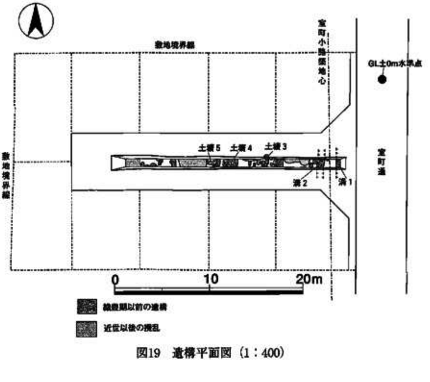


図19　遺構平面図（1：400）

検出した。この溝は調査区内で幅40cm以上あり，深さも約20cmある。その位置から室町時代後期の室町小路西側溝と考えた。溝内には灰色砂泥が堆積しており，土師器皿や瓦質土鍋片等が出土した。

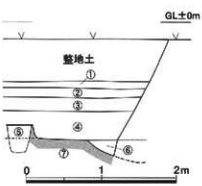
溝２　現室町通から溝心まで3.9mあり，溝幅75cm，深さ約25cmで，暗灰色泥砂（上層）と灰色小礫混泥砂（下層）を埋土にもつ。瓦質羽釜等が出土している。その位置から室町小路の宅地内内溝と考えた。

土壙３　現室町通から9.5m西にあり，直径約50cmと考えられる。土壙底部に人頭大の石があり，その上部に土師器皿が数枚重ね合わせた状態で埋められていた。

土壙４　現室町通から土壙中心までの距離は約13.2mあり，土壙の長軸1.5m，短軸70cmを測る。遺構検出だけにとどめたが，墓穴の可能性がある。

写真11　方形土壙検出状況（西から）

土壙５　土壙４の西75cmのところにあり，東西長1.1m以上，南北長70cm以上に達する。土壙４と同様，墓穴の可能性がある。



① 7.5YR4/4　褐色泥砂
② 10YR4/3　にぶい黄褐色泥砂
③ 10YR3/4　暗褐色泥砂
④ 5Y4/1　礫を多く含む灰色泥砂
⑤ 10Y4/1　灰色砂泥（柱穴埋土）
⑥ 7.5Y4/1　灰色砂泥（溝１埋土）
⑦ 7.5Y6/2　灰オリーブシルト（地山）

図20　室町小路西側溝部分北壁土層図（1：50）

3　遺　物

上師器皿の形態，時期については，小森俊寛・上村憲章両氏の研究資料を参考にした[8]。

土師器皿Ｎ小　２，３が該当し，口径は7.6cm前後である。土壙３から出土し，いずれも完形である。厚めの平底から指オサエにより体部が立ち上がった後，横ナデにより口縁部が外反している。口縁部下端に稜線をもち，器壁がそこで最も厚くなる。

土師器皿Ｎ大１　４～10が該当し，口径は８cm台後半のもの（４，５）と，9.5cm前後のもの（６～10）の２法量に分かれる。溝１から出土した５以外は，全て土壙３から出土したものである。形態は皿Ｎ小とほぼ同じであるが，６～10は内底面外周が大きく窪み，その部分で器壁が最も薄くなる。

土師器皿Sh　１が該当し，口径は6.8cmである。底部中央が上方に窪むへそ皿で，外面は口唇部のみ横方向にナデられている。溝１から出土した。

土師器皿Ｓ大　11，12が該当し，口径は14cm台である。内底面外周部分を薄い凸線が巡っ

ており，口縁部は強く横方向にナデられている。いずれも溝1から出土した。

瓦器土鍋　13が該当し，口径25.1cmである。口縁部が2度屈曲し，受口状になっている。外面は口縁部のみナデられ，体部は指オサエにより成形されている。溝1から出土している。

瓦器羽釜　14が該当し，口径35cmである。鍔は短く外方に伸びており，口縁部は外面で段差をもち，上方に短く立ち上がっている。体部は指オサエにより成形されている。溝2から出土した。

4　まとめ

小森・上村編年によると，複数の土師器皿を重ねて埋納していた土壙3は，京都IX期古段階前後の型式に収まり，15世紀中頃の遺構と考えられる。一方，室町小路西側溝及び，宅地内内溝は，京都X期古段階前後の型式に収まり，16世紀中頃のものと考えられる。また，墓跡の可能性のある土壙4，土壙5も遺構検出にとどめたものの，室町時代頃の遺構である可能性が高い。以上から，当該地では室町時代を中心とした遺構が多いことが分る。実際，室町時代には，久我家が伝領していたものの，酒屋を含めた商工業地域の一角になっていたとされており[3]，当該遺構群も商工業者の活動に伴う可能性がある。

（馬瀬 智光）

註

1）『平安京提要』（古代學協會・古代學研究所編集　角川書店　1994年）の275～276頁。

2）小森俊寛・上村憲章　「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号（（財）京都市埋蔵文化財研究所　1996年）の187～271頁。

3)高橋康夫・吉田伸之編　『日本都市史入門　I　空間』（（財）東京大学出版会　1989年）の都市史図集12の1『室町期の京都　市街図』を参照。

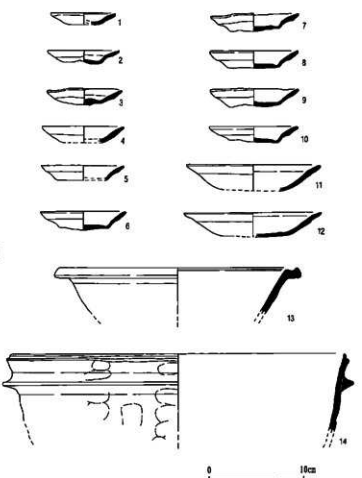


図21　出土遺物（1：4）

Ⅳ-1　平安京右京二条二坊十三町跡・西ノ京遺跡　No.41

1．調査経過

調査の対象地は，西大路と太子道の交差点の南西，中京区西ノ京南上合町42および43の工場跡地である。平安京では右京二条二坊十三町の北東隅に当たり，また，弥生～古墳時代の遺物散布地として周知されている西ノ京遺跡にも含まれている。

周辺では,平安時代の建物跡や包含層がしばしば検出されており，特に南200mの市立西京商業高校グラウンド，すなわち二条大路を挟んだ南隣の町である三条二坊十六町では，1999年度の発掘調査で斎宮の邸宅と見られる園池が検出されて話題となった。また，西側道向かいの敷地で，市内最古となる縄文早期の押型文土器が見つかっていることも注目される[1]。

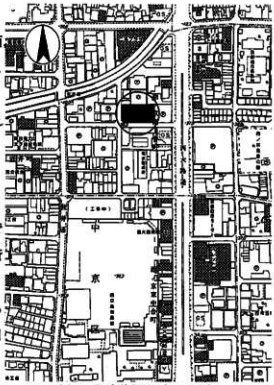


図22　調査位置図（1：5000）

今回，当該地で宅地造成計画の届出があったため，これに先立ち2001年12月5日に試掘調査を実施した。対象面積は1,012㎡である。調査の結果，平安中期に埋没した井戸跡ほかを良好な状態で検出したため，事業主に調査トレンチの掘削跡に下水管を通すよう指導し，2002年1月23日の施工時に確認のための立会調査を実施した。

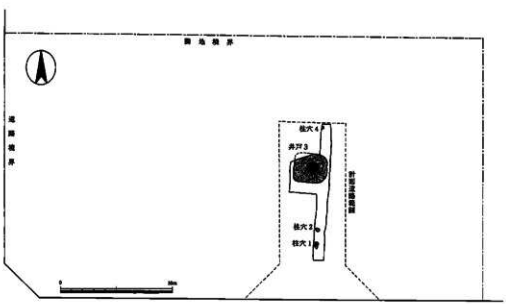


図23　トレンチ位置図（1：300）

2 遺構

工事計画が宅地造成であるため，調査トレンチは，下水管埋設によって工事の掘削が最も深く及ぶ宅地内道路部分に設定した。

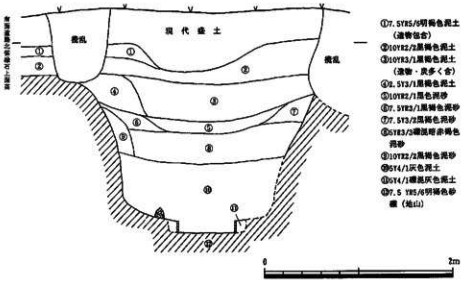


図24 井戸３土層断面図（1：40）

層序 トレンチ内には，所々でかつての工場の基礎や地盤改良が見られるものの，遺構の残存状況は総じて良好であった。層序は単純でほぼ水平に堆積しており，盛土の直下，現況の地表下30ないし40 cmで遺物包含層が現れる。この包含層の時期は詳らかでないが，おそらくは平安末～鎌倉時代頃と思われる。この下層には，ほとんど遺物を含まない層が１層あって，その下の現地表下60～70 cmで明褐色砂礫の地山となる。検出遺構は柱穴３基と井戸１基で，いずれも地山上で検出した。

柱穴１・２ トレンチの南端で検出した。柱穴１の柱当たりは木質を含んだ黒色の土で埋まっており，柱は抜かれずにそのまま腐朽したものと思われる。柱穴２にはこのような柱当たりはなく，一連の構造物であるかどうかは分からない。いずれも埋土中に時期判別の手掛かりとなるような遺物はないが，層位的には平安期に遡る。

井戸３ 当初設定したトレンチで東半分を検出したため調査区を拡張し，北西部分を残して４分の３の埋土を掘り上げた。検出面での掘形がおよそ2.5m×3.0mの隅丸方形で，深さは1.6mを測る。井戸側はほとんど遺存していなかったが，南東の隅柱の根本がわずかにのこっていたことから，方形縦板組の井戸であったと思われる。井戸の最下部には，水溜めとして直径約50 cmの曲物が据え付けてあった。曲物の埋土内からは10世紀頃（小森・上村編年第Ⅲ期）[2]の土師皿片が少量出土したが，しばしば祭祀行為として捉えられるような土器や石材の投入は見られず，曲物の肩口で２個の河原石が出土したが，これらがその類のものかどうかは分からない。堆積状況も一度に埋めたようなものではなく，⑧層までが自然に埋没した後，その窪地を埋めたように見受けられる。遺物は井戸の埋土中，下層にはあまり見られず，③層から集中して出土したが，全て破片で，ほとんど接合しない。

3 遺物

実測可能な遺物はすべて井戸３の出土である。調査の時間的制約から，遺物の出土層位は必ず

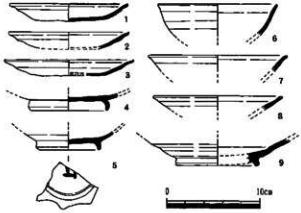


図25　井戸３出土遺物（1：4）

しも明確にできていないが，③層以外にはほとんど遺物が見られないか，あっても細片であることは前述したとおりである。

土師器　図25-１～３。いずれも橙色ないし黄橙色を呈する皿である。小森・上村編年第Ⅲ期古段階頃と思われる。

灰釉陶器　図25-４・５。美濃産の椀で，いずれも三日月高台を貼り付けている。５は底面に墨書を有し，文字と思われるが，破片であるため内容は分からない。

緑釉陶器　６～８が椀，９が段皿である。硬質の焼成で，釉調は７が淡緑色，他は濃緑色である。６は③層からの出土。

この他，平安期と思われる丸・平瓦が出土したが，土器と同様いずれも破片である。

4　まとめ

今回の調査では，工事による掘削の浅い宅地部分については調査を行わなかったため，限られた調査区となったが，10世紀後半頃最終的に埋没した方形縦板組井戸１基を検出した。井戸の廃棄に伴う鎮めの儀礼などは行われなかったようであるが，埋土からは多くの土器片・瓦片が出土し，特に緑釉陶器の多いことは注目される。北東100mの二条二坊十一町跡における発掘調査でも，緑釉陶器の顕著であることが特記されており[3]，一帯に高級邸宅が並んでいたことを端的に示している。十三町における平安時代の居住者は記録に残っていないが，二条大路に面する町であることを思えば，当然相応の人物であったと思われる。

（堀　大輔）

註

1）京都市埋蔵文化財調査センター・（財）京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘調査報告 昭和55年度』，調査概要一覧表』49-21，1981年

2）小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」（（財）京都市埋蔵文化財研究所『研究紀要』第３号，1996年）

3）辻　純一「右京二条二坊」『平安京跡発掘調査概報 昭和59年度』（京都市文化観光局・（財）京都市埋蔵文化財研究所，1985年）

Ⅳ-2　平安京右京五条二坊十四町跡・西院遺跡　No.44

1．調査経過

調査地は右京区西院矢掛町29-1，30-1で，高辻通と佐井通交差点の北東角地である。平安京右京五条二坊十四町の南西隅に該当するほか，弥生～古墳時代の遺跡として周知される西院遺跡の一画にも当っており，北側隣地で行われた立会調査では，古墳時代前期と推定される壺子形木製鍬が出土している[1]。

当該地において分譲用の宅地造成が計画されたことを受けて，2001年6月6日に試掘調査を実施したところ，平安時代の掘立柱建物跡が良好な状態で検出された。事業主側と協議の結果，同月13・14日の２日間，遺構の破壊が懸念される宅地内道路の範囲について，可能な限り建物遺構の広がりを追跡することを目的に追加の調査を行い，重複する２棟の掘立柱建物跡ほかを確認した。

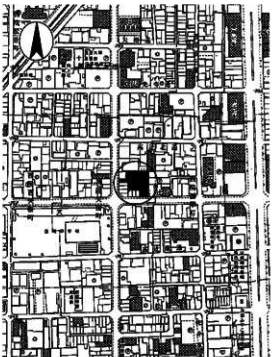


図26　調査位置図（1：5000）

2　遺　構

造成計画では宅地内道路が鉤形に設定されており，今回の調査は極力この範囲内にとどめ，宅地部分については将来本格的調査を行う機会に委ねることにした。第27図のトレンチ配置は，最初の試掘調査と追加調査の範囲を机上で合成したものである。

層序　層序は概ね単純で，GL（調査時）-30cm前後まで石炭ガラの盛土があり，-48cmまでが旧耕土，-60cmまでが中世包含層で，以下は砂礫がちの地山となる。地山の土色・土質は地点によって微妙に異なるが，大部分は褐色系統の小礫混じり泥砂で，

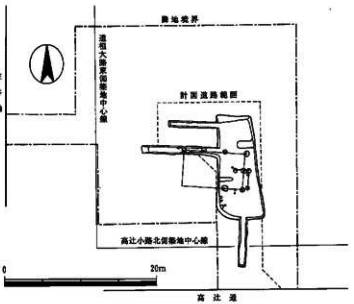


図27　トレンチ位置図（1：500）

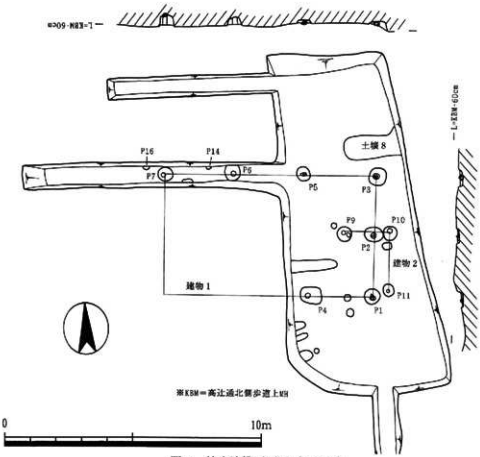


図28　検出遺構平面図（1：150）

調査区の北西隅部分のみ灰色砂礫であった。

掘立柱建物1　最初の試掘調査で一部を検出していたもので，追加調査の結果，2間×3間の東西棟であることを確認した。柱間は南北が8尺（2.4m）等間，東西が9尺（2.7m）等間である。掘形はいずれも直径60～70cmほどの円形を呈し，柱当たりは直径約25cm，底部にはわずかながら柱根が残存している。掘形埋土中の遺物は僅少であるが，須恵器杯・壺，緑釉素地，土師器椀などの破片が出土した。土師器椀は調整c手法のものである。

掘立柱建物2　建物1の南東部に重複する格好で検出された。直径約50cmの円形の掘形で，柱間は東西6尺（1.8m），南北8尺（2.4m）を測る。P11の西側に柱穴がなく，柵のような施設である可能性もあるが，一応建物跡としておく。建物1との新旧関係は不明である。

この他，土壙1基と小ピット多数，近世の耕作に関わるとみられる溝4条を検出した。P14とP16は一連のものと思われる。なお，調査区の南端付近には高辻小路の北側築地推定ラインが通るが，これに関する遺構は確認できなかった。

写真12　柱穴7半裁掘削状況（北から）

3　遺　物

遺物は，近世耕作溝から若干出土しているほ

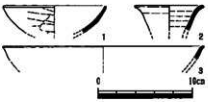


図29　出土遺物（1：4）

かは，建物1の柱穴埋土から僅かにあるのみである。1は土師器椀で外面をヘラケズリ調整している。2が須恵器の壺，3は緑釉素地と思われる椀で，かなり軟質の焼成である。1は柱穴7の，2と3は柱穴4の掘形埋土からそれぞれ出土した。

4　まとめ

今回は十四町南西隅の調査となったが，掘立柱建物2棟を検出した。このうち建物1の掘形埋土内からは，細片ながら平安前期に遡る遺物が出土している。また，調査地の西側を通る道祖大路は，平安前期のうちに流路化し，道祖川となることが周辺の発掘調査で確かめられているが，今回の調査では調査区が大路部分に達していないこともあって，明確な河川の痕跡は認めていない。ただ調査区北西隅で地山が灰色砂礫となっているのは，道祖川の流水の影響を受けたものかもしれない。

（堀　大輔）

註

1）伊藤　潔・尾嶋徳行「右京五条二坊十四町（93HR109）」『京都市内遺跡立会調査概報 平成5年度』（京都市文化観光局・（財）京都市埋蔵文化財研究所，1998年）

Ⅳ-3　平安京右京六条四坊十町跡・西京極遺跡　No.48

1　調査経過

調査対象地は，右京区西院月双町95の工場跡地で，平安京条坊では右京六条四坊十町の一画に当たる。また，桂川左岸の自然堤防上に立地している当地は，弥生～奈良時代の集落跡である西京極遺跡の範囲内にも推定されており，1978年，東隣地のマンション建設の際には，弥生中期の溝が検出されている。

今回，当該地で倉庫新築計画の届出があったため，2001年8月3日，806㎡の敷地中，計画建物範囲の356㎡を対象として試掘調査を実施した。その結果，平安時代の整地面を確認し，敷地内に遺跡が存在する可能性が高いと判断されたが，計画建物による掘削が遺構面より十分に浅いため，今回は本調査に至らなかった。

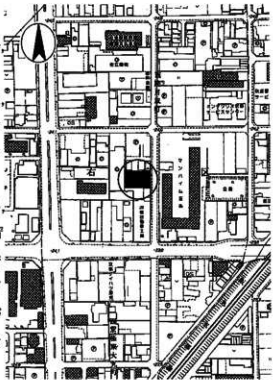


図30　調査位置図（1：5,000）

2　遺　構

トレンチは計画建物に合わせて東西に設定した。まず建物中央に1トレンチを設定。次いで，東側道路境界とほぼ同じ位置に山小路西側築地線が復元されるため，築地内側溝の有無を確認することを主眼に，2トレンチを掘削した。

層序　全域でほぼ単一の様相を示し，おおよそGL-60cmまで現代盛土，-94～110cmが旧耕土で，その直下が平安時代の整地土となる。整地土には平安前期の遺物が包含されている。前述のとおり，工事の掘削が浅いため，今回はこれより下層の調査掘削を控え，地山は確認していない。

土壙1　1トレンチ西端で検出した。隅丸方形の土壙で，東西幅およそ1.2m，検出面からの深さ24cmを測る。半截掘削したところ，埋土には平安前期の土器のほか炭化物が混入していた。

溝2　2トレンチで検出した，西北西－東南東方

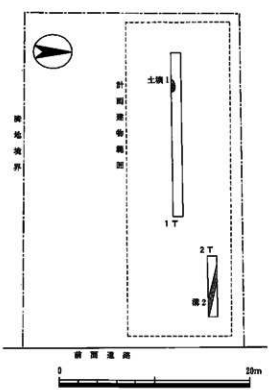


図31　トレンチ位置図（1：400）

向の溝。幅約40cm。部分的に掘削した限りでは，土師器の細片が出土したのみで，時期については明確でない。

3　遺　物

図化できるものはいずれも須恵器で，1～3が皿A，4が杯B蓋，5が杯B，6は鉢Dである。2と3は焼成が甘くやや軟質である。5は土壙1から，他は整地土中から出土した。

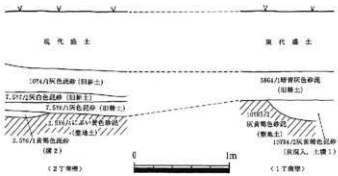


図32　土層断面図（1：40）

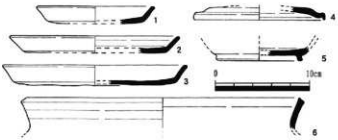


図33　出土遺物（1：4）

4　まとめ

今回の試掘では，対象地の全面で平安前期の遺物を含む整地土が良好に遺存していることが確認できた。建物跡などは見出されなかったが，出土須恵器に大きめの破片が目立つことから，直近にこれらを使用した施設があることは十分予想される。

これまでの周辺の調査では，前述のごとく東隣地などで明確な遺構が検出されている一方，西側の光華女子大学構内などで実施した試掘調査では，盛土直下が氾濫堆積の礫層となっており，遺跡の西限が問題の一つになっていた。しかし，本年度に実施した試掘調査の成果によって，このことについて一つの手掛かりが与えられた。

写真13　1トレンチ全景（西から）

本調査地が，少なくとも平安時代には安定した陸地であったことは上述のとおりであるが，建物一つおいた西隣地では，現地表下85ないし110cm以下が泥土状の湿地堆積であり（2001年6月18日試掘調査，試掘一覧No.49参照），この2地点の間が遺跡の西限のうちの1点であったと言える。ただし，本調査地の整地土が，本来は湿地であった所を埋め立てたものか，元から陸地であったのかを確認していないため，遺跡西限としての当該地が，西京極遺跡の時代にまで遡るものかどうかは定かでない。将来の再調査の機会を待ちたい。

（堀　大輔）

V-1　常盤東ノ町古墳群（仁和寺院家跡・村ノ内町遺跡）No.10

1　調査経過

調査地は右京区常盤東ノ町16-4の一部で，丸太町通と宇多野吉祥院線の交差点から約80m南にある。当該地の北東隣接地にある京都きもの会館で，1976年に発掘調査が実施され，古墳時代後期に属する直径14～18m級の円墳３基が見つかっている[1]。また，南隣接地で1993年に実施した試掘調査においても古墳の周溝の可能性のある幅4.3m，深さ0.2mの南北溝が確認され，古墳時代後期の須恵器壺・杯，脚付長頸壺等が出土している[2]。さらに，南西約150mのＮＴＴ社宅建設に伴う発掘調査でも古墳時代後期の竪穴住居跡24棟，掘立柱建物４棟からなる集落跡が検出されており[3]，古墳時代後期の墓域と集落をセットで捉えられる良好な遺跡群が展開している。

今回，建築面積480㎡の店舗建設に先立ち，平成13年３月19日に試掘調査を行った結果，古墳時代後期の古墳石室及び周溝を検出した。なお，建築主及び土地所有者の承諾を得て設計変更が実施され，遺構は地下に保存されることとなった。

2　遺　構

計画建物の中央部に東西方向の調査区を設定して試掘調査を実施した。その後，調査区中央部で２基の土壙を検出したため，南側に拡張した結果，調査面積は34㎡となった。

４号墳　今回新たに発見された古墳で，石室及び周溝の一部を検出した。墳丘封土は完全に失われており，石室部分は耕作以前にゴミ穴として利用されていたため，石室西側の石列は抜き

図34　常盤東ノ町古墳群の分布と調査位置図（1：2,500）

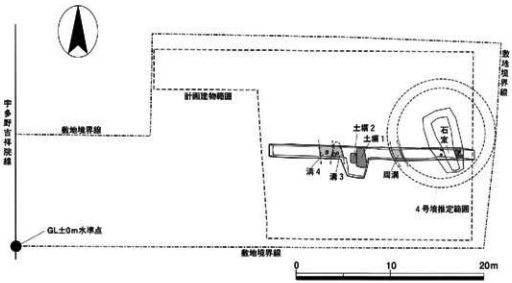


図35　遺構平面図（1：400）

取られ，東側も1段を残すのみであった。石室部分の幅は約1m，深さは約0.5m残存していた。石室石材は地山の黒色泥砂を掘り込んで据えられており，抜き取り痕で須恵器の特殊扁壺や甕の口縁部片が出土した。周溝は幅1.3m，深さ0.25mで，埋土は黒色泥砂であった。

写真14　4号墳石室（北から）

土壙1　南北2m以上，東西1.1mの長方形の土壙。

土壙2　南北1.05m，東西0.67mの長方形の土壙で，壁面及び床面が赤色に変色しており，埋土底部に炭を多く含んでいた。遺物は全く認められず，その時期は不明である。

溝3　幅1.3m，深さ0.2mの断面皿形の南北溝。

溝4　幅1.4m，深さ0.35mの南北溝で，遺物は認められなかった。

写真15　調査区全景（南から）

3　遺　物

全体に遺物は少なく，石室内で検出された須恵器甕及び，特殊扁壺を紹介する。

甕　図37の1。口径38cm，残存高6.8cmの須恵器で，口縁部は外側に肥厚し，内端部は短く上方に突き出している。同一個体とみられる胴部片が数片出土した。

特殊扁壺　図37の2。今回みつかったのは，把手の部分で，

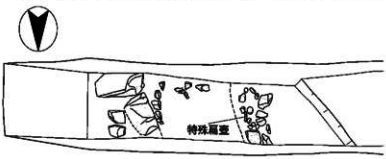
長さ12.6cm，直径2.6cm，中心は直径1cmほどの空洞になっており，端部から2.8cmのところに直径2mmの円孔が穿たれている。

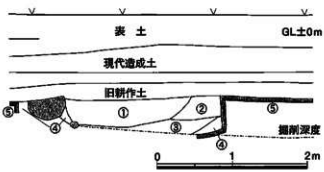
4　まとめ

今回常盤東ノ町古墳群で4番目の古墳が検出されたことで，周辺にも未知の古墳が埋没している可能性が高まった。4号墳は石室と周溝の位置から，約9.2mの規模と考えられ，当古墳群最小の古墳となる。

また，京都市内で2例目となる特殊扁壺の出土[4]は，興味深い事例である。

（馬瀬 智光）





① 現代の攪乱（ガラス，陶磁器片を含む）
② 2.5Y3/2　黒褐色泥砂（石の抜き取り痕跡）
③ 小礫を多く含む灰黄褐色泥砂（10YR4/2）に
④ にぶい黄褐色泥砂（10YR7/2）を斑に含む
⑤ 黒色泥砂（10YR2/1）に明黄褐色泥砂（2.5Y7/6）を斑に含む
⑥ N2/0　黒色泥砂（地山）

図36　4号墳石室平面図・断面図（1：50）

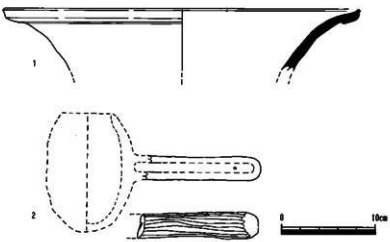


図37　石室内出土土器実測図（1：4）

註

1）鈴木廣司・百瀬正恒・平田泰『常盤東ノ町古墳群（京都市埋蔵文化財研究所調査報告－1）』（(財)京都市埋蔵文化財研究所　1977年）

2）長谷川行孝　「常盤東ノ町古墳群」『京都市内遺跡試掘調査概報　平成5年度』（京都市文化観光局　1994年　27～29頁）

3）鈴木廣司・伊藤潔・平尾政幸『常盤仲ノ町集落遺跡発掘調査報告（京都市埋蔵文化財研究所調査報告－Ⅲ』（(財)京都市埋蔵文化財研究所　1978年）

4）北田栄造・丸川義広　「鹿脚1号墳発掘調査概報」（京都市文化観光局・（財）京都市埋蔵文化財研究所　1986年）の第1石室から完形品が出土している。　また，市内出土数は，山田邦和著『須恵器生産の研究』（学生社　1998年）の第30表を参照した。

V-2岩倉幡枝町内範囲確認調査　No.11

1　調査経過

この確認調査は，洛北第三土地区画整理事業に伴って前年度から実施しているもので，今回が二回目となる。洛北第三土地区画整理は，岩倉盆地の南西部，幡枝地域の田畑32万㎡を対象に実施される事業である。この地域には，周知の埋蔵文化財包蔵地として八幡古墳群，幡枝古墳群，栗栖野瓦窯跡などの遺跡が主として丘陵部に点在しているが，事業対象地内においては，これまで遺跡の発見例は無かった。このため遺跡の有無を確認するために平成10年６月に（財）京都市埋蔵文化財研究所と当センターとで分布調査を実施した。その結果，施工区域の北部，木野集落に近い畑地の畦や用水路に平安時代の須恵器，陶器が散布しているのを確認した。

遺物の散布地は，府立北陵高校の西側の農地で，鞍馬の山地から流れ出てくる長代川の扇状地上に立地している。分布調査では東西250m，南北250mのエリアを中心に土器類を採取した。この分布調査を契機として平成12年１月に工事予定地内の道路建設に先立って試掘調査を実施した。この調査では，粘土取りと思われる土壙や小ピットを検出し，調査を終えた。

本年は，工事も本格的に行われるため，それにあわせて試掘調査も道路予定地内の26箇所について調査した。試掘調査の対象範囲は，南北300m，東西200mほどあり，分布調査において遺物の散布を認めた地点をほぼ全域カバーしている。調査は，（財）京都市土地区画整理協会の協力のもとに平成13年２月26・27日と３月１日の３日間実施した。

図38　調査位置図(1：5,000)

2　遺構

工事施工区域内に設定した26箇所の調査区の概要を以下に報告する。

1トレンチ（東西11.4m・幅1.5m）耕作土直下がベース（黄橙色泥砂）。トレンチ東端で東西1.2m，幅0.5m，深さ0.3mの土壙1基，西端では深さが0.25～0.4mの不定形な土壙状遺構1基を検出。いずれも時期不明。

2トレンチ（東西6.9m・幅1.7m）　遺構・遺物なし。

3トレンチ（東西9.2m・幅1.5m）　耕土直下がベース（にぶい黄橙色泥砂）。幅が1.8～1.0mの南北溝状遺構1条。遺物なし。

4トレンチ（南北10m・幅1.5m）　耕土直下がベース（明黄褐色シルト）。トレンチの北半部において不定形で深さが0.15～0.45mと一定でない土壙状遺構を検出。

5トレンチ（南北4.6m・幅1.5m）　耕土下に20cmほどの厚みの整地層（褐灰色泥砂）あり。整地層の下はベースの褐灰色微砂の堆積で地下水が滲み出る。このベース面の直上には礫を多量に敷き詰めており，礫敷きの間隙には青磁片などの土器類も認められた。この面は一見，路面風に見えるが地下水位の高い場所で畑の下地を造るための工夫と考えられる。

6トレンチ（南北9.3m・幅1.5m）・**7トレンチ**（南北9.0m・幅1.5m）・**8トレンチ**（南北8.6m・幅1.7m）・**9トレンチ**（南北6.9m・幅1.5m）　いずれも耕土直下がシルト堆積で，遺構・遺物共になし。

10トレンチ（南北6.9m・幅1.5m）　耕土直下がベースの黄橙色シルト。トレンチ中央部で

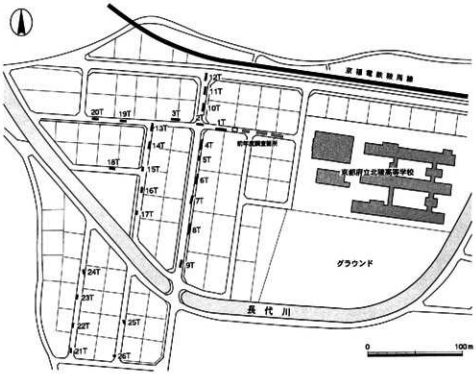


図39　トレンチ位置図（1：4,000）

写真16　1トレンチ全景　（西から）

写真17　11トレンチ全景　（南から）

写真18　16トレンチ全景　（北から）

写真19　23トレンチ全景　（南から）

長さが3m，深さが0.3～0.8mで輪郭の不定形な土壙1基を検出。

11トレンチ（南北7.7m・幅1.5m）耕土直下のベース面で直径25cmほどの柱穴3基，土壙2基などを検出。

12トレンチ（南北7.3m・幅1.5m）遺構・遺物なし。

13トレンチ（南北8.65m・幅1.5m）・**14トレンチ**（南北5.3m・幅1.5m）・**15トレンチ**（南北3.8m・幅1.6m）・**16トレンチ**（南北6.5m・幅1.5m）・**19トレンチ**（東西4.5m・幅1.6m）・**20トレンチ**（東西5.6m・幅1.5m）・**25トレンチ**（南北4.3m・幅1.4m）これらのトレンチはいずれも耕土とベース面の間に土器や瓦片を含む砂礫やシルトの整地層を認めたが，遺構は発見できなかった。また**22トレンチ**（南北4.8m・幅1.1m），**24トレンチ**（南北4.5m・幅1.2m），**26トレンチ**，（東西1.7m・幅1.3m）でも耕土下に整地層が認められたものの，遺物・遺構ともに検出できなかった。

17トレンチ（南北3.3m・幅1.5m）・**18トレンチ**（東西5.5m・幅1.6m）・**21トレンチ**（南北4.8m・幅1.4m）・**23トレンチ**（南北4.8m・幅1.2m）では，耕土直下がシルトや砂礫の河川氾濫堆積で遺構・遺物ともに検出できなかった。

3　まとめ

前年度の調査を含めると30箇所にトレンチを設けたことになる。前回の調査で小ピットや土壙等を検出したトレンチの西延長上に位置する1・3トレンチやその北側の10・11トレンチでは土壙や溝・柱穴等を認めたものの，土壙などは平面輪郭が不定形であり，底も凸凹の状態のものが大半であり，顕著な遺構とは言い難いものが大半であった。

また耕作土と地山の間に整地層のある畑が何箇所かで認められ，その整地層の中に平安時代から中世の陶磁器類や瓦が混入していることを確認した。この整地作業の行われている畑は，地山面まで掘り下げると地下水の湧き出てくる地下水位の高い所ばかりであることから，湧水防止のために土砂を運び込んで耕地に改良したと思われる。分布調査において採取した土器類は，この整地土に混じっていた遺物と考えられ，遺構に伴う遺物では無いことが今回の調査で判明した。

これらの調査成果をもとにすると，当該地において現時点では積極的に遺跡の存在を示す資料は無いと判断されが，農地に改良するために搬入された土砂に土器や瓦等が混じっていることは，入土砂の採掘場所には何らかの遺跡が在ったと予想される。　　（長谷川 行孝）

V-3　北野廃寺・北野遺跡　No.14

1．調査経過

調査対象地は，北区小松原南町33の学校内である。この度，校舎の建て替えが計画されたが，当該地が北野廃寺推定範囲の北西隅，および北野遺跡の範囲に含まれるため，平成13年2月21・22日の2日間，試掘調査を実施した。その結果，顕著な遺構は認められなかったものの，土師器や須恵器など多数を検出したため，遺物の出土が見込まれる地点に対する補足調査を3月2日に実施した。

図40　調査位置図（1：5,000）

2　遺　構

当該地には旧校舎が建っていたため，まずその地下への影響の度合いを確認するためのトレンチを設定したところ（1・2トレンチ），旧校舎の基礎が地表下2m近くまで入っており，その範囲内では遺構検出が期待できないことが判明した。計画建物はほとんど旧校舎の範囲と重複していたが，わずかに旧中庭部分及び旧校舎南辺に新規掘削が生じる部分があったため，この部分に絞ってトレンチ調査を行った（3～5トレンチ）。その結果3トレンチで比較的多量の遺物の出土を見たため，補足調査として6トレンチを設け，掘削した。

層序　基本的な層序は，近現代の盛土の下に時期不明の包含層があり，その下が黄褐色砂泥または泥砂の地山である。また，包含層は4・5トレンチでは認められず，代わりに旧耕土の層がある。遺構は地山上で南北溝3条とピット1基を検出した。

溝1　3トレンチで東肩を検出した規模の大きな自然流路である。補足調査で設定した6トレンチを，可能な限り西へ延ばしたが西肩を検出できず，したがって幅は20m以上を有することになる。埋土の断面観察によれば，水量の異なる流れが何度もあったらしく，複数の溝が複雑に切り合っている。西寄りでは粘土などの湿地堆積層が主で，東寄りは砂礫層や泥砂層が多い。はじめは幅広かった溝が，最終的には東端に流路が限定されていったようである。

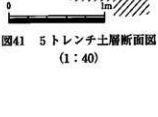


図41　5トレンチ土層断面図（1：40）

3トレンチの溝肩口に近い埋土上層では緑釉陶器・須恵器・土師器・瓦などが出土し，6トレンチの同位置でも，量は少ないながら上層で同様の遺物を認めたほか，下層からは暗文を有する土師器小片を検出した。全体的に奈良時代以前の遺物が目立つものの，上層には室

町頃のものも含まれており，溝の成立自体も古代まで遡るかどうか疑問である。

その他の遺構　溝２と３は５トレンチで検出した。溝３は溝１の続きかと思われたが，天目茶碗が出土しており，別個のものと捉えている。溝２も比較的新しいものであろう。ピット４は溝１の東側で検出し，埋土中には土師器片が含まれていたが，時期の判別には至らなかった。

３　遺　物

遺物はほとんど全てが溝１からの出土で，その主なものを図に示した。

土師器　１は飛鳥Ⅱ期に比定される杯Ｃ，２は同じくⅤ期を前後する頃と思われるⅢＡで，ともに放射暗文を１段に巡らせている。１は暗赤褐色，２は明褐色を呈し，焼成は良好である。

３～８は白色系の土師器皿Ｓで，15世紀後半（小森・上村編年Ⅸ期中～新段階）のものである[1]。これらは全て溝１上層のオリーブ黒色砂泥層から出ており，下層からは認められない。

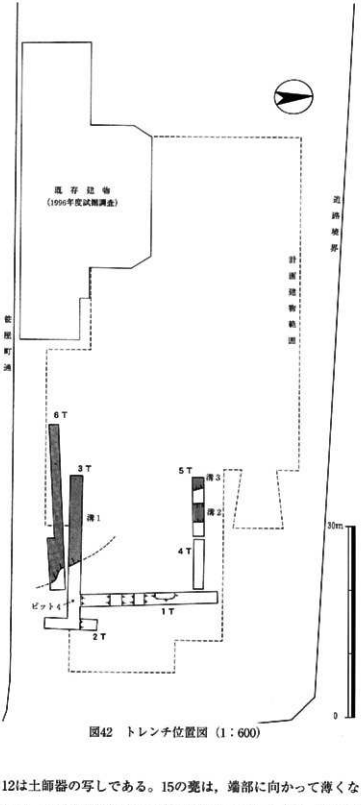


図42　トレンチ位置図（1：600）

須恵器　９～14は杯で，このうち12は土師器の写しである。15の甕は，端部に向かって薄くなり，わずかに外反して収めた口縁をもつ。いずれも焼成がよく硬質であることもあるが，摩滅が少なく大型の破片が多い。岩倉古窯跡群の資料と比較すると，概ね７世紀後半～８世紀前半頃（岩倉Ⅱ段階～Ⅳ古段階頃）のものと考えられる[2]。

瓦　出土したのは丸・平瓦のみで軒瓦はない。ここでは特徴的なタタキ目をもつ平瓦を図示した。16はＶ字形を連続させるもので軸線はもたない。17・19は斜格子タタキ，18は単位が長方形

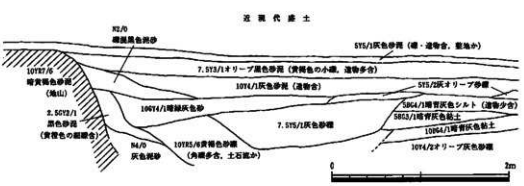


図43　6トレンチ・溝1部分土層断面図（1：40）

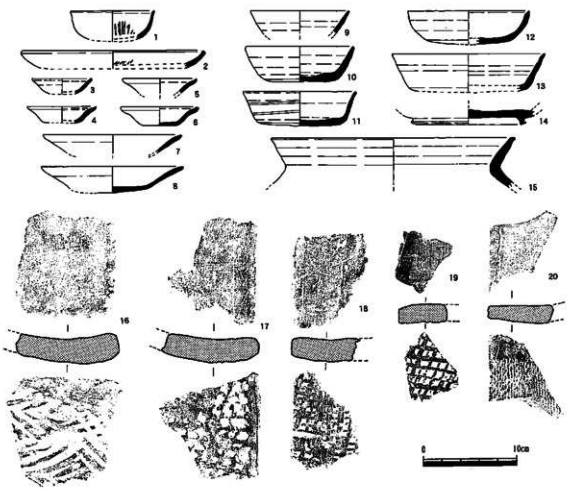


図44　溝1出土遺物（1：4）

の格子タタキ，20は縦位の縄タタキである。縄タタキは他にも多種がある。

この他，特筆すべきものとしては緑釉陶器があるが，小片のため器種不明である。

4　まとめ

今回の調査地は，北野廃寺推定寺域の北西隅およびその外側に当たっているが，大半が攪乱を受けていることもあって，一定量の古代瓦の出土こそ見たものの，寺院に関連する遺構は全く確

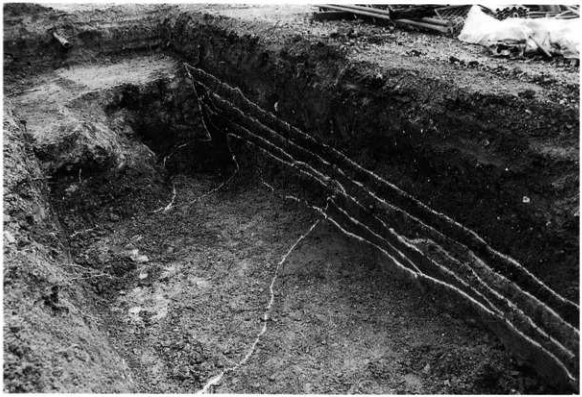


写真20　6トレンチ・溝1完掘状況（北西から）

認することができなかった。

その一方，溝1から比較的多量の土器が出土し，それらにほとんど摩滅が認められないことは，それらを使用した施設ないし集落がすぐそばにあったことを示している。したがって，飛鳥～奈良時代の土器は，北野廃寺に関わる施設・集落のものと見るのが自然であろう。また，既往の調査によって，北野遺跡では弥生～室町時代の集落遺構が確認されており，今回出土の土器の下限も室町時代であることから，大きくはこの範疇で捉えられるものと思われる。そして，溝1がかなりの大型流路であることから，少なくともある一時期，集落の西を限っていた可能性がある。

（堀　大輔）

註

1）小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」（(財) 京都市埋蔵文化財研究所『研究紀要』第3号，1996年）

2）宮本康治「須恵器の編年と技術的検討」（京都大学考古学研究会『岩倉古窯跡群』，1992年）

Ⅵ　試掘調査一覧表

平成12年度　1～3月期

平安宮

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
朝本跡・紫宸殿跡	上・下長者町通智恵光院西入山本町100他	2/7	GL-1.5mで，紫宸殿本丸の南縁を検出。本文6頁	25 ㎡	1	00K432

平安京左京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
北辺二坊六町跡	上・中立売通油小路西入東橋詰町71他3筆	1/11	GL-1.4m以下で明黄褐色砂泥の地山。深さ1.2m以上，幅5m以上の落ち込みを検出。	54 ㎡	2	00R238
六条二坊十五町跡	下・西洞院通万寿寺下る八幡町541-1,542-1,543	3/7	GL-1.36m以下で中世末～近世初頭の土壙2基および湿地状堆積。	29 ㎡	3	00R479
八条四坊一町跡	下・東洞院通七条下る塩小路町524-1他43筆	1/22	GL-1.6mで中世の柱穴，土壙，溝などを発見，発掘調査を指導する。	39 ㎡	4	00R397
九条二坊九町跡	南・西九条池ノ内町60-1,60-3,61-1,61-2,62,64-2,64-3,65～77	1/17	河川の氾濫原で，中世には浅い湿地帯になる。近世以後は畑地。	82 ㎡	5	00R395

平安京右京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
五条二坊五町跡	中・壬生西檜町31,31-1	3/28	旧耕土直下が砂の堆積で，遺構・遺物なし。	28 ㎡	6	00R511
六条二坊五町跡	下・西七条御前田町7-2,7-3,8	2/13	推定西堀川小路部分で，平安時代の湿地堆積。	32 ㎡	7	00R243
七条二坊一町跡	下・西七条東石ケ坪町1-1,1-2	1/24	GL-0.7mで平安時代の池または湿地。	42 ㎡	8	00R407
史跡西寺跡	南・唐橋西寺町57	2/9	GL-0.2～0.25mで西寺遺構面と思われる整地土層。	9 ㎡	9	12C-29

太秦地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
常盤東ノ町古墳群（仁和寺院家跡・村ノ内町遺跡）	右・常盤東ノ町16-4の一部	3/19	GL-1.1mで古墳を検出。設計変更を指導する。本文28頁	34 ㎡	10	00S489

洛北地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
岩倉幡枝町範囲確認調査	左・岩倉幡枝町他1ヶ町	2/26-27,3/1	顕著な遺構・遺物の検出なし。本文31頁	209 ㎡	11	9S5579
植物園北道路	北・上賀茂勝田町28,29	2/19	GL-0.45mで，流れ堆積の地山。	44 ㎡	12	00S411
植物園北道路	北・上賀茂盛田町41	3/14	耕作土直下で，砂礫または黄褐色シルトの地山。	36 ㎡	13	00S485
北野廃寺跡・北野遺跡	北・小松原南町33	2/21,3/2	GL-0.4～0.7mで大型流路1，南北溝2，ピット1を検出。本文35頁	129 ㎡	14	00S452

北白川地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
六勝寺跡	左・岡崎徳成町20-2他	3/26	GL-1.32mで土師器細片を含む褐色泥砂の整地層。GL-1.59mで平安時代の瓦片を含むにぶい黄褐色砂泥の整地層。大半は近代の撹乱層だが，平成元年4月の試掘調査によって整地西半部から平安時代の遺構が検出されているため，設計変更を指導する。	20 ㎡	15	00R510

伏見・醍醐地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
伏見城跡	伏・桃山町真菅1他	2/15	GL-1.8m以下で伏見城幾城期の盛土と考えられる整地土を検出。	80 ㎡	16	00F470
史跡醍醐寺	伏・醍醐御堂町22	2/5	GL-0.85～1.2mで地山。	9 ㎡	17	12N-26

南・桂地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
中久世遺跡	南・久世殿城町441	1/29	GL-1.4mで平安時代以降の南北溝、柱穴などを検出する。	120 ㎡	18	00S400
大藪遺跡	南・久世殿城町546-1	3/13	操作土直下で、掘立柱建物2棟を検出。発掘調査を指導する。	84 ㎡	19	00S088

長岡京地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
長岡京跡	伏・羽束師愛宕町671,676他	H12/12/14,1/31	GL-2.8mで長岡京期と思われる柱穴を発見する。設計変更を指導する。	33 ㎡	20	00NG375

平成13年度4～12月期

平安宮

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
掃部寮跡	上・六軒町通仁和寺街道下る西春町150-1	7/30	GL-1.5m以下で地山の黄褐色砂泥。直上まで近世の整地層。	7 ㎡	21	01K152
宮内省跡	上・竹屋町通千本東入主税町1254	6/27	GL-1.15mで推定、宮内省南面築地の南側側溝を検出する。発掘調査を指導する。	22 ㎡	22	01K125
大蔵省跡	上・上長者町通千本西入五番町157の一部	11/7	GL-1.02mで大蔵省築地内濠の可能性のある東西溝を検出。工事中の立会調査を指導する。	22 ㎡	23	01K310
大蔵省跡	上・中立売通浄福寺西入加賀屋町389-1,391,671	12/6	GL-0.50mで地山。北寄りGL-100cmで北への落ち込み検出。	16 ㎡	24	01K394

平安京左京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
北辺三坊五町跡	上・烏丸通一条下る筋違町590,407-1	12/3	GL-0.29～0.37mで遺構面。土壙・溝など多数検出。発掘調査を指導する。金箔瓦・墨書土器等出土し、巻頭カラー掲載。	51 ㎡	25	01H382
二条三坊一町跡	中・釜座通丸太町上る梅屋町174	10/11	GL-0.6～0.9mで平安時代末から室町時代の土壙、柱穴等多数検出。発掘調査を指導する。	48 ㎡	26	01H203
二条三坊七町跡	中・衣棚通丸太町下る玉雄町223,223-4,-5,-6,-7,-11他	7/11	平安時代末の柱穴、近世の石列と整地を認めるが、全体に攪乱著しい。	33 ㎡	27	01H091
三条三坊十二町跡	中・烏丸通場之町905他	10/22,11/28～11/30	近世の地下蔵2基検出。本文8頁	60 ㎡	28	01H318
三条三坊十五町跡	中・御池通東洞院西入中保利町174他14筆	6/11	平安時代末～室町時代の柱穴、土壙、瓦溜を良好な状態で検出。発掘調査を指導する。	47 ㎡	29	01H053
三条四坊九町跡	中・富小路通二条下る俵屋町182-1	12/10	GL-2.9mまで攪乱。以下地山の砂層となる。	34 ㎡	30	01H284
三条四坊十一町跡	中・富小路通御池下る松下町	6/25,8/1	GL-2.2～2.7mで中世～近世の土壙・井戸・溝など多数検出。発掘調査を指導する。	213 ㎡	31	01H016
三条四坊十五町跡	中・御池通中町西入亀屋町371-1他8筆	4/9	GL-1.7mで桃山、GL-2.1mで平安末頃の包含層。	57 ㎡	32	00H563
四条二坊九町跡	中・三条通堀川東入備東詰町2	10/15	GL-1.45mで中世の三条大路南側溝、堀川小路東側溝、柱列等を検出。本文13頁	61 ㎡	33	01H279
四条二坊十四町跡	中・蛸薬師通油小路東入元本能寺南町（旧本能小学校）	4/11,4/12	平安時代から室町時代の道路・遺物が良好に残存している。発掘調査を指導する。	53 ㎡	34	00H555
四条三坊十二町跡	中・室町通錦小路下る菊水鉾町575他	3/5,4/16	GL-1.5～1.8mで地山の砂礫層。攪乱著しい。	75 ㎡	35	00H436

六条一坊二町跡	下・中京中坊城町37・1他17筆、丹後口駅土地区画整理事業施工地区内第3街区3・1,3・3,4画地	8/20	GL-0.78～0.95mで六条坊門小路北側溝を検出。本文15頁	50 ㎡	36	01H174
六条二坊八町	下・御舟通五条上る姉小路町571	7/23	GL-1.3～1.5mで中世から近世にかけての土壙・溝・井戸などを検出する。大半は旧建物の地下室建設時に遺構消滅。	36 ㎡	37	01H163
六条三坊七町跡	下・室町通五条上る板室屋町274,271,270	11/14	GL-1.05～1.3mで地山の灰オリーブシルト。室町小路西側溝、及び宅地内内溝を検出。設計変更を指導する。本文17頁	34 ㎡	38	01H145
八条三坊十五・十六町跡	下・不明門通七条下る東塩小路町709-9,-11,731	9/19	塩小路路面、十六町内溝、土壙、ピット等を検出。発掘調査を指導する。	31 ㎡	39	01H131
八条四坊九町跡	下・西木屋町通七条上る新日吉町134-2,136,136-1,136-2,136-3,下・七条通間之町東入材木町451	11/5	GL-0.25～0.87mで砂礫層。上面で中近世の土壙1基検出。	37 ㎡	40	01H254

平安京右京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
二条二坊十三町跡	中・西ノ京南上合町42,43	12/5	GL-0.3mで包含層、GL-0.6～0.7m地山上で平安中期の井戸、柱穴を検出。工事中の立会調査を指導する。本文20頁	26 ㎡	41	01K356
三条一坊一・二町跡	中・西ノ京星池町46-1	9/27	GL-0.7～1.0mで地山。押小路に関する遺構なし。	60 ㎡	42	01K262
四条一坊十二・十三町跡	中・壬生森町29-1,29-2	12/17	西鴨川小路の東西両側溝検出。発掘調査を指導する。	28 ㎡	43	01K350
五条二坊十四町跡	右・西院矢掛町29-1,30-1	6/6,6/13,6/14	GL-0.48mで中世包含層、GL-0.6mで平安初期の掘立柱建物2棟他を検出。本文23頁	78 ㎡	44	00K056
五条三坊十一町跡	右・西院久田町102	5/16	GL-1.2mで平安時代の柱穴、溝等検出。設計変更を指導する。	29 ㎡	45	01K014
六条二坊九町跡	右・西院高田町15,西高田町21-10	12/25	旧建物の基礎などによる攪乱が著しく、五条大路に関する遺構は検出できなかった。	19 ㎡	46	01K192
六条三坊十六町跡	右・西院清水町101,144	4/4	GL-2.5m以下、湿地状堆積。GL-3.0mで平安前期の包含層。基礎深度が浅く遺構への影響なし。	24 ㎡	47	00K496
六条四坊十町跡	右・西院月双町95	8/3	GL-0.94～1.1mで平安前期の包含層。上面で土壙・溝を検出。工事中の立会調査を指導する。本文26頁	24 ㎡	48	01K181
六条四坊十町跡	右・西院月双町107	6/18	GL-0.85m以下、湿地状堆積。	15 ㎡	49	01K043
七条四坊十町跡	右・西京極東池田町11-1,-2,-3,-4	9/26	GL-1.7m以下、湿地状堆積。	21 ㎡	50	01K161
史跡西寺跡	南・唐橋西寺町56-3	7/30	GL-0.32mで西寺の整地層	9 ㎡	51	13K004
史跡西寺跡	南・唐橋西寺町65	5/11	西寺存続期の整地層を確認。	8 ㎡	52	12K045
九条三坊九・十六町跡	南・吉祥院御河原町7-1	4/23	GL-1.03～1.25mで黄褐色砂泥の地山。遺構・遺物なし。	38 ㎡	53	00K590

太秦地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
法金剛院境内	右・花園寺ノ内町4の一部	12/12	耕作土直下で地山の灰白色粘土層、顕著な遺構・遺物なし。	40 ㎡	54	01S307
常盤仲之町遺跡・村ノ内町遺跡・常盤東ノ町古墳群	右・常盤仲之町3-2	5/14	GL-2.2～2.5mまで撹乱により、遺構面の残存なし。	56 ㎡	55	01S005
門田町遺跡	右・太秦門田町5-3	6/21	耕土直下で不定形な土壙状遺構、柱穴3個（ともに時期不明）を認めたのみ。	111 ㎡	56	01S111
和泉式部町遺跡	右・太秦森ケ東町8-2	8/16	GL-0.4mで地山の黒ボク土。土師器細片を散点採取するのみ。	10 ㎡	57	01S209
史跡名勝嵐山	右・嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-57,3-63	4/3	GL-1.83mまで現代盛土、以下、にぶい黄色砂泥の地山。	7 ㎡	58	12N-38

洛北地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
大宮北山ノ前瓦窯跡	北・大宮北山ノ前町40の一部	8/27	窯跡に関する遺構は発見出来ず。	19 ㎡	59	01S147

北白川地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
北白川廃寺，上終町遺跡	左・北白川東瓜ノ内町33-1	7/16	GL-0.30mの砂礫層上面で柱穴３基を検出。工事中の立会調査を指導する。	2 ㎡	60	01S153
白河街区跡・岡崎遺跡	左・岡崎天王町52	12/19	平安時代末期の集石土壙，室町時代の地状遺構等を検出。発掘調査を指導する。	47 ㎡	61	01S411

洛東地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
安朱遺跡	山・安朱中小路町5-1	8/22	GL-0.4mで時期不明の土壙１基，土壙状遺構２基，流路１基を検出。	62 ㎡	62	01S166
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町38-1,27-1	4/25	GL-0.5mで南殿造営に伴う整地層を検出。顕著な遺構・遺物は検出出来ず。工事中の立会調査を指導する。	29 ㎡	63	01S003
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町38-1他	9/17	南殿の内堀の延長及び屈曲部を確認した。発掘調査を指導する。	94 ㎡	64	01S241
大塚遺跡	山・小山北津町4-1	5/23	GL-1.5mまで旧建物の基礎による撹乱。遺構・遺物なし。	12 ㎡	65	00S259
坂民須恵器窯跡	山・上花山旭山町13-1,上花山桜谷61-1	10/3	GL-0.1～0.4mで傾斜堆積する地山。	45 ㎡	66	01S253
中臣遺跡	山・勧修寺西金ヶ崎291,292,293	11/19	GL-1.3m以下，地山の浅黄色粘土層。遺構，遺物無し。	17 ㎡	67	01S351

伏見・醍醐地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
深草寺跡	伏・深草田谷町1,直違橋町5-319	5/9	GL-1.25mで地山。北東から南西へ流れる流路を検出。	23 ㎡	68	00S507

鳥羽地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
下鳥羽遺跡	伏・竹田松林町56	10/1	GL-0.75mで遺物包含層，GL-0.98～1.26mで氾濫堆積。	8 ㎡	69	01S267

南・桂地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	番号	受付番号
上久世遺跡・上久世城跡	南・久世上久世町445,445-3	7/4	GL-0.94～1.56mで中世遺物を含む流れ堆積。	41 ㎡	70	01S102
下津林遺跡	西・下津林仙（陸上自衛隊自衛隊桂駐屯地）	8/6,8/8	GL-0.61～0.84mで明黄褐色砂泥の地山，時期不明の溝を２条確認。	172 ㎡	71	01S070

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしくつちょうさがいほう
書名	京都市内遺跡試掘調査概報　平成13年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	長谷川行孝・馬籠智光・堀　大輔
編集機関	京都市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒602-8435　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
発行年月日	西暦2002年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
へいあんぎゅうなししとあと 平安宮槃本跡・ じゅらくだいあと 聚楽第跡	きょうとしかみぎょうく 京都府京都市上京区 しもちょうにょうぼうかちょうとちゃのはしいらかせきもちょう 下長者町通智恵光院西入山本町 100他	26100	229	35度 1分 10秒	135度 44分 58秒	2001/2/7	25	個人住宅
へいあんきょうきょう 平安京左京 さんじょうさんぼうじゅうにちょうとおり 三条三坊十二町跡	きょうとしかみぎょうく 京都府京都市中京区 かちすまとおりぶのちょう 烏丸通姉之町905他 405、407他	26100		35度 0分 20秒	135度 45分 43秒	2001/10/22 ～11/30	60	学校
へいあんきょうきょう 平安京左京 しじょうにぼうきゅうちょうあと 四条二坊九町跡	きょうとしなかぎょうく 京都府京都市中京区 さんじょうとおりはちがわのがしいらはしのがしづのちょう 三条通堀川東入横東詰町2 405、407他	26100		35度 0分 18秒	135度 45分 17秒	2001/10/15	61	共同住宅
へいあんきょうきょう 平安京左京 ろくじょういっぽうにちょうあと 六条一坊二町跡	きょうとしかみぎょうく 京都府京都市下京区 ちゃうどうこぼうにちょう 中堂寺坊城町37-1他17筆他	26100		34度 59分 35秒	135度 44分 45秒	2001/8/20	50	店舗
へいあんきょうきょう 平安京左京 ろくじょうさんぼうはちじゅうちょうあと 六条三坊七町跡	きょうとしかみぎょうく 京都府京都市下京区 ちゃうどうこぼうにちょうあかるがしどうやちょう 室町通五条上る坂東屋町270、271、274	26100		34度 59分 37秒	135度 45分 39秒	2000/10/4	38	宅地造成
へいあんきょうきょう 平安京左京 にじょうにぼうさんじゅうちょうあと 二条二坊十三町跡	きょうとしかみぎょうく 京都府京都市中京区 にしのきょうちゅうかるがしあいのちょう 西ノ京南上合町42、43	26100		35度 0分 40秒	135度 44分 2秒	2000/5/10	26	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安宮槃本・ 聚楽第跡	都城跡・ 城館跡	平安時代 安土桃山時代	聚楽第本丸南縁の堀		
平安京左京 三条三坊十二町跡	都城跡	平安時代	近世地下蔵2基	軒平瓦・須恵器・土師器 灰釉陶器・染付	
平安京左京 四条二坊九町跡	都城跡	平安時代	三条大路南側溝・堀川小路東側溝・堀川小路路面・柱列	瓦質羽釜	
平安京左京 六条一坊二町跡	都城跡	平安時代	六条坊門小路北側溝	「木工」銘平瓦	
平安京左京 六条三坊七町跡	都城跡	平安時代	室町小路西側溝・同内溝・土師器埋納土壙	土師器・瓦質羽釜	
平安京右京 二条二坊十三町跡	都城跡	平安時代	井戸・柱穴	緑釉陶器・灰釉陶器 平瓦・丸瓦・土師器	工事中の立会調査を指導する。

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしくつちょうさがいほう
書名	京都市内遺跡試掘調査概報　平成13年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	長谷川行孝・馬瀬智光・堀　大輔
編集機関	京都市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒602-8435　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
発行年月日	西暦2002年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
へいあんきょううきょう 平安京右京 ごじょうにばんにじゅうよんちょうあと 五条二坊十四町跡	きょうとしみぎょうくにしきょうく 京都府京都市右京区 さいいんやがいちょう 西院矢掛町29-1,30-1	26100		34度 59分 48秒	135度 45分 59秒	2001/6/6 ～6/14	43	宅地造成
へいあんきょううきょう 平安京右京 ろくじょうにばちょうあと 六条四坊十町跡	きょうとしみぎょうくにしきょうく 京都府京都市右京区 さいいんつきさちょう 西院月双町95	26100		34度 59分 37秒	135度 43分 25秒	2001/8/3	24	事務所
とまりのがしのまちごあんぐん 常盤東ノ町古墳群・ にんなじいんけあと 仁和寺院家跡・ むらのうちちょういせき 村ノ内町遺跡	きょうとしみぎょうくにしきょうく 京都府京都市右京区 ときわかのちょう 常盤仲之町3-2	26100	778 772 779	35度 0分 55秒	135度 42分 44秒	2001/3/19	34	店舗
いわくらほたまだちょうない 岩倉幡枝町内 はんいかくにんちょうさ 範囲確認調査	きょうとしみぎょうくにしきょうく 京都府京都市左京区 いわくらはたまだちょう 岩倉幡枝町外1ヶ町	26100		35度 4分 4秒	135度 46分 20秒	2001/2/26 ～3/1	209	区画整理
きたのはいじあと 北野廃寺跡・ きたのいせき 北野遺跡	きょうとしみぎょうくにしきょうく 京都府京都市北区 こまつばらみなみまち 小松原南町33	26100	153 152	35度 1分 33秒	135度 43分 55秒	2001/2/21 ～3/2	129	学校

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京右京 五条二坊十四町跡	都城跡	平安時代	掘立柱建物２棟		
平安京右京 六条四坊十町跡	都城跡	平安時代	平安時代遺物包含層 ・土壙１基	土師器・須恵器	
常盤東ノ町古墳群・ 常盤仲之町遺跡・ 村ノ内町遺跡	古墳 集落	弥生時代・古墳時代・平安時代	円墳１基・土壙２基・ 溝２条	特殊扁壺・須恵器壺	設計変更により保存措置をはかる。
岩倉幡枝町内範囲確認調査	散布地	平安時代	耕地の整地		
北野廃寺跡・ 北野遺跡	寺院跡・ 集落跡	弥生時代～平安時代	大型流路１条・ 南北溝２条	須恵器・土師器	

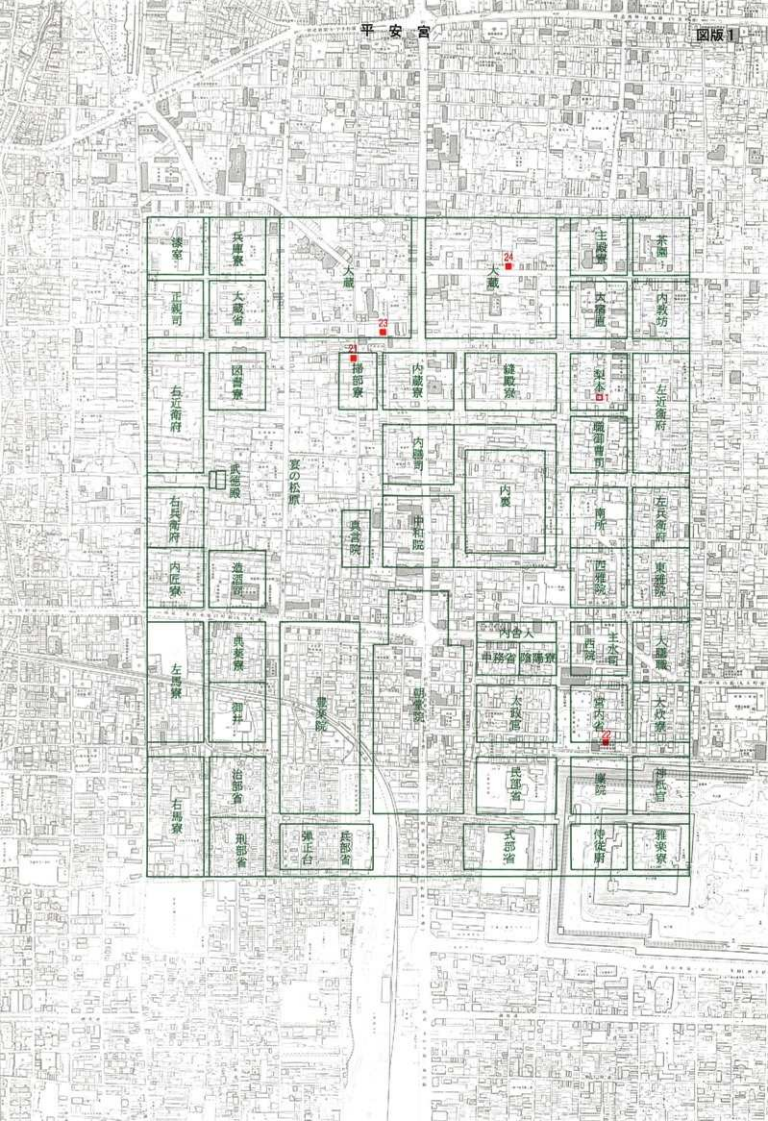
図　　版

凡　例

平成13年試掘調査地点

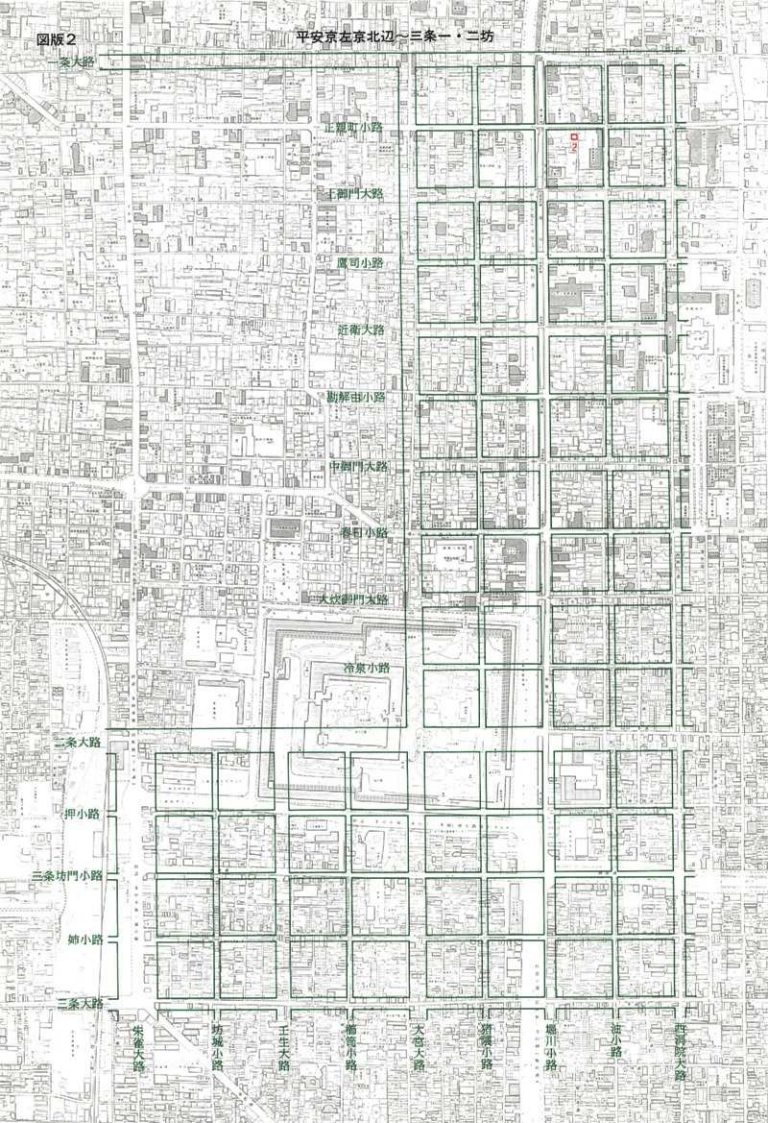
□ 1月～3月　　■ 4月～12月

－－－－－ 遺跡範囲


平安宮
漆室
兵庫寮
大蔵
大蔵
正親司
大蔵省
23
24
21
掃部寮
内蔵寮
鍵取寮
主殿寮
大膳職
内教坊
茶園
梨本
1
左近衛府
図書寮
右近衛府
内豎所
内侍所
内裏
内裏
武器殿
衰の松原
右兵衛府
真言院
中和院
南所
左兵衛府
内匠寮
造酒司
西雅院
東雅院
内舎人
中務省
職事
主水司
大膳職
典薬寮
左馬寮
御井
豊楽院
朝堂院
太政官
宮内省
大炊寮
2
民部省
摂政院
神祇官
治部省
右馬寮
刑部省
弾正台
兵部省
式部省
伊勢神宮
雅楽寮

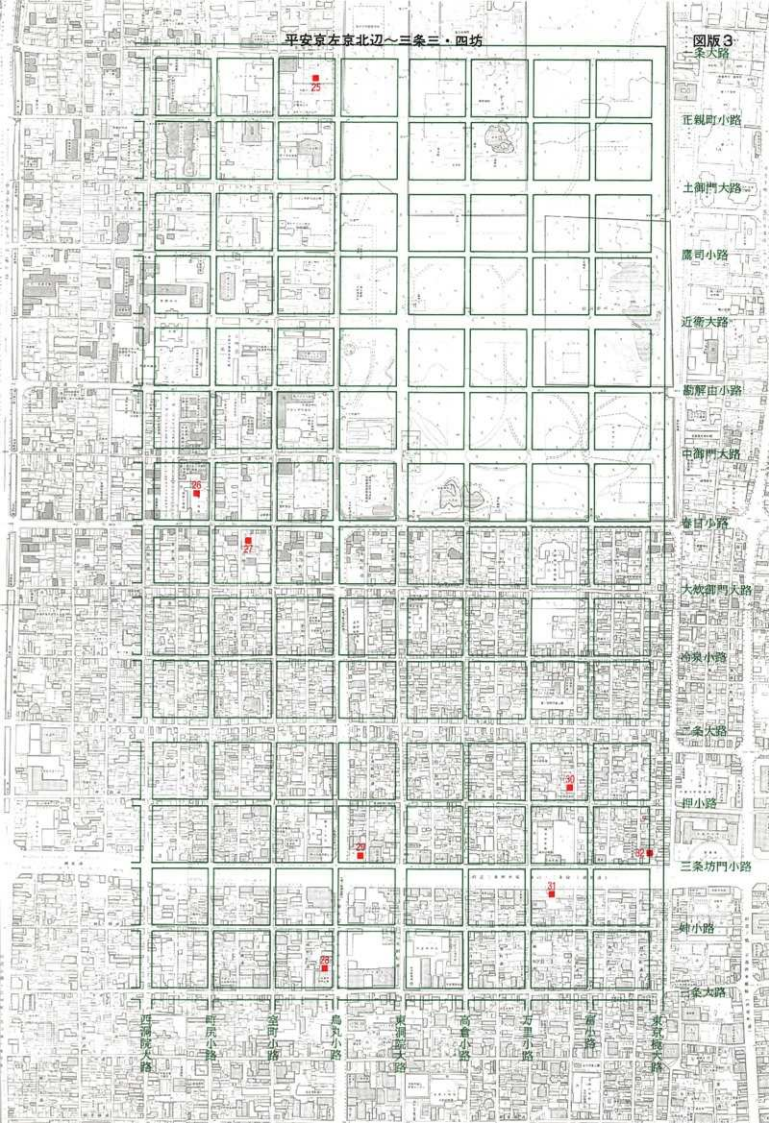
図版2

平安京左京北辺～三条一・二坊



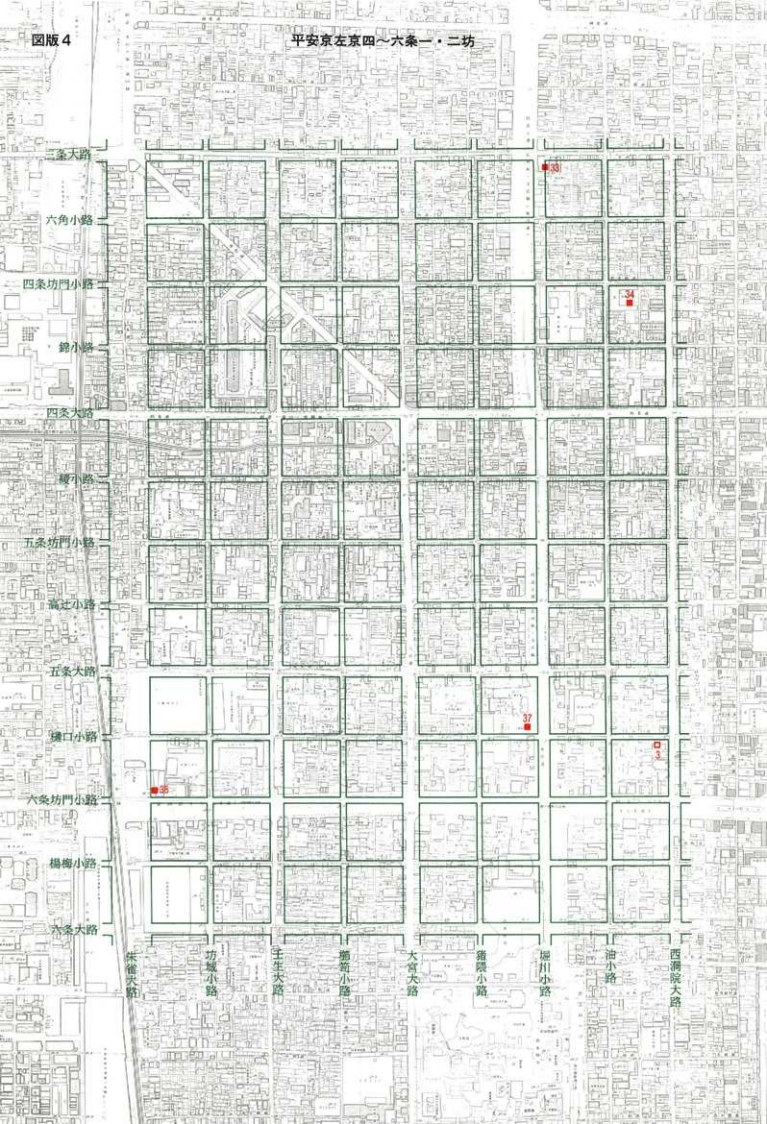
図版3

平安京左京北辺～三条三・四坊



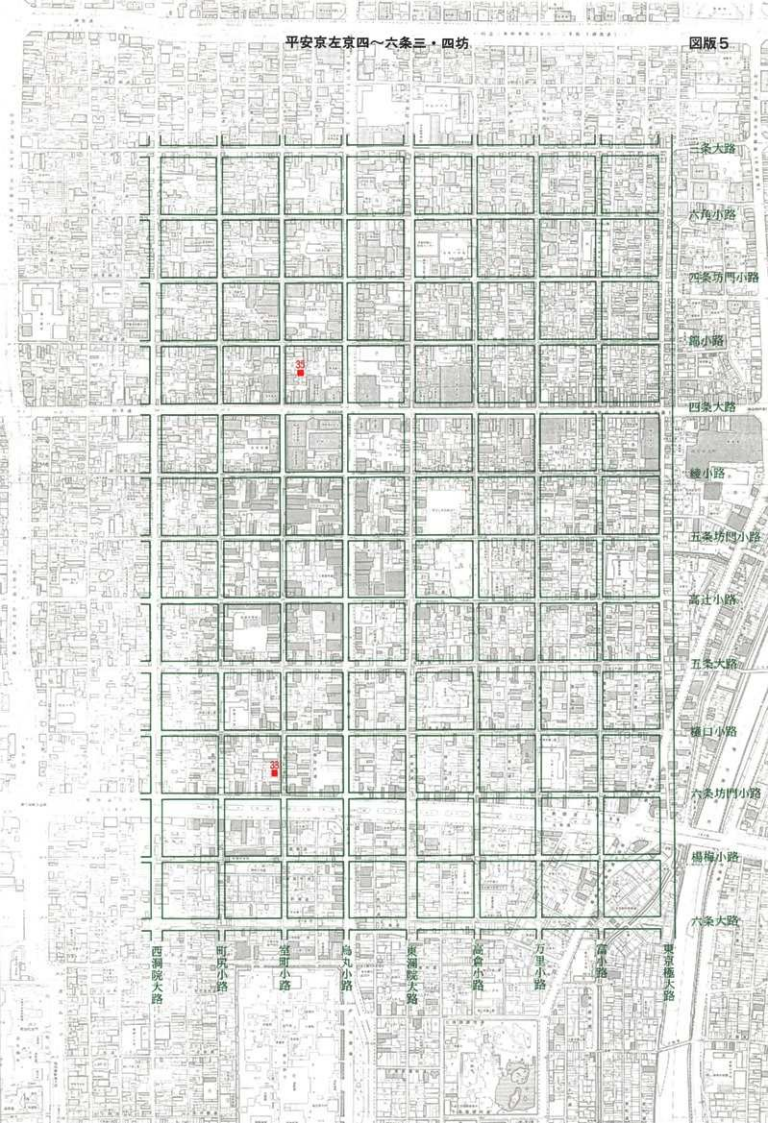
図版4

平安京左京四～六条一・二坊



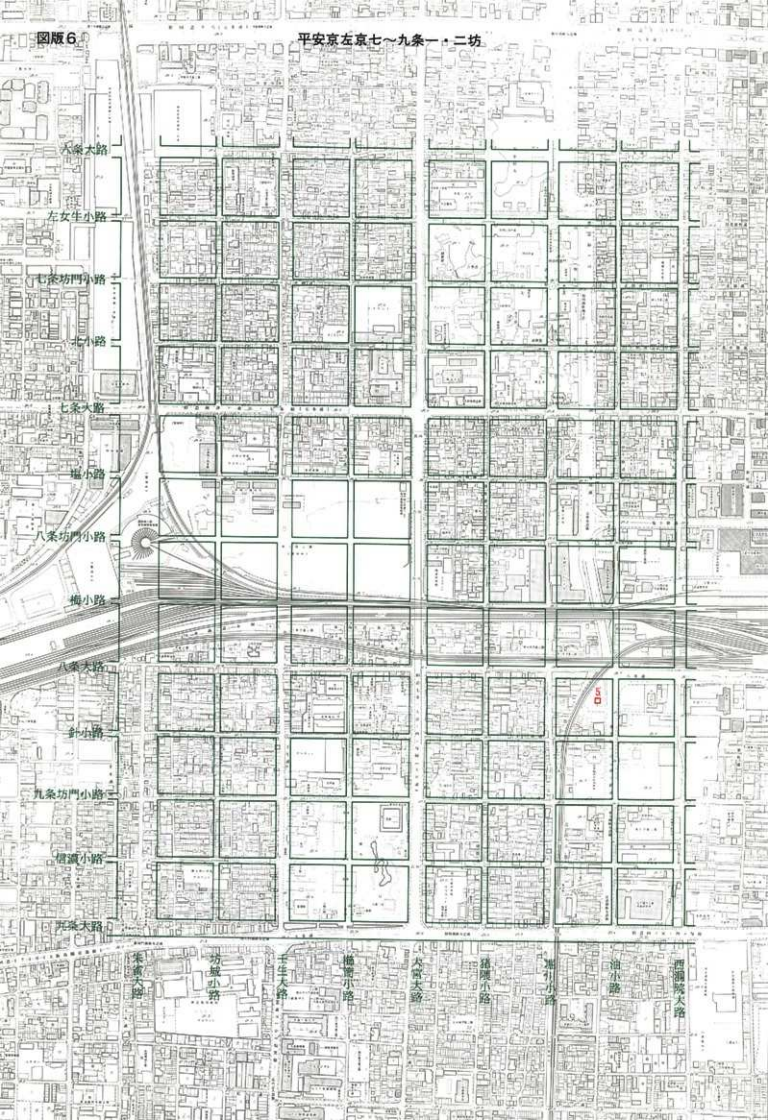
平安京左京四～六条三・四坊

図版5

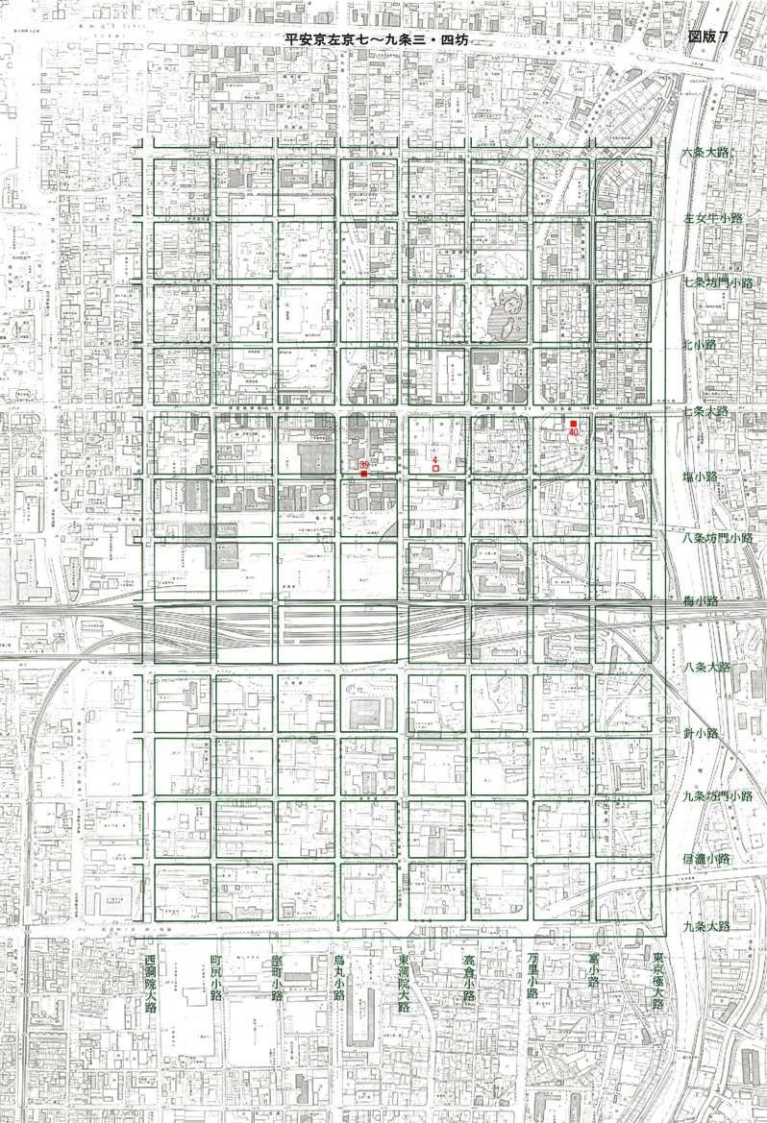


図版6

平安京左京七～九条一・二坊



平安京左京七～九条三・四坊

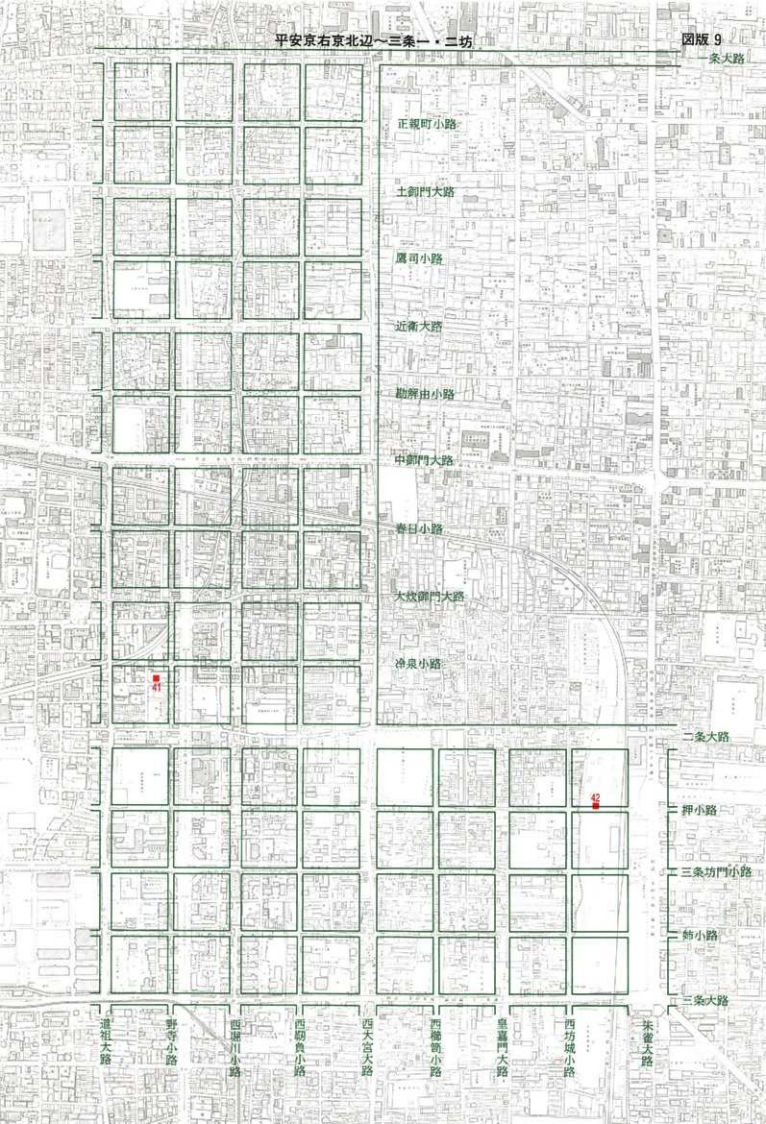


図版B

平安京右京北辺一～三条三・四坊

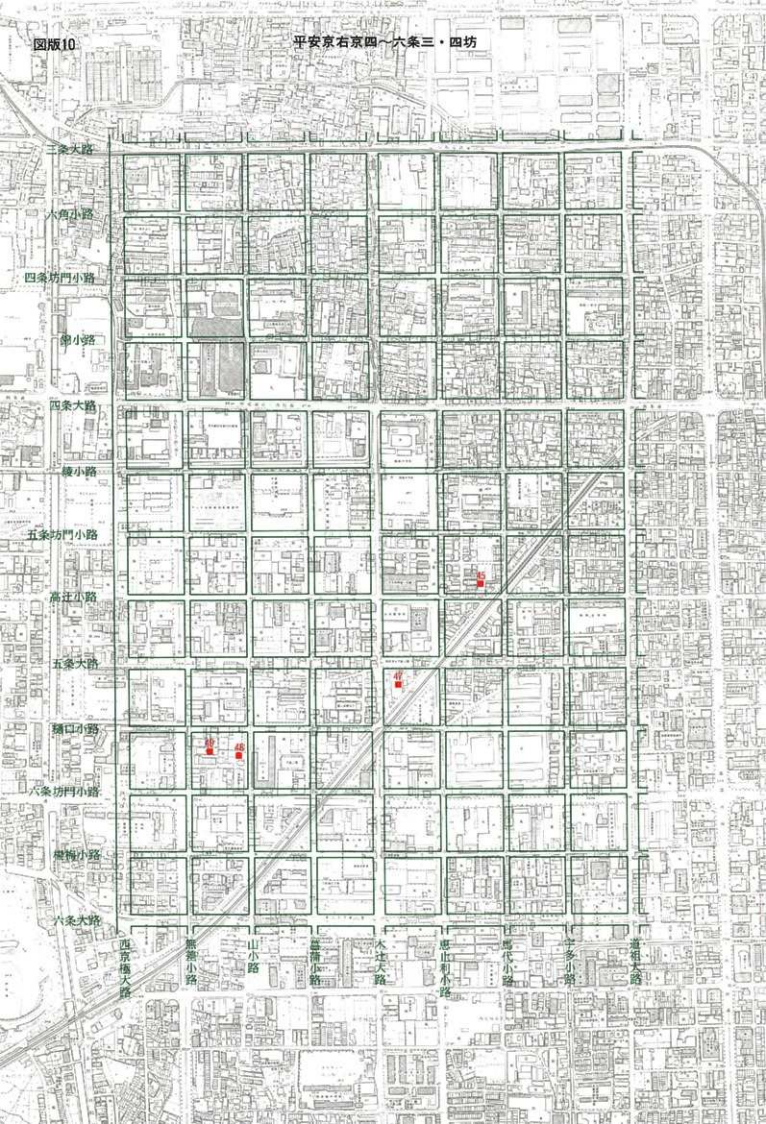
一条大路
正親町小路
土御門大路
室町小路
近衛大路
勘解由小路
中御門大路
春日小路
冷泉小路
冷泉大路
押小路
三条坊門小路
姉小路
三条大路
西京極大路
糸桜小路
山小路
篠崎小路
木辻大路
東洞院小路
烏丸小路
学校小路
道祖大路

平安京右京北辺～三条一・二坊



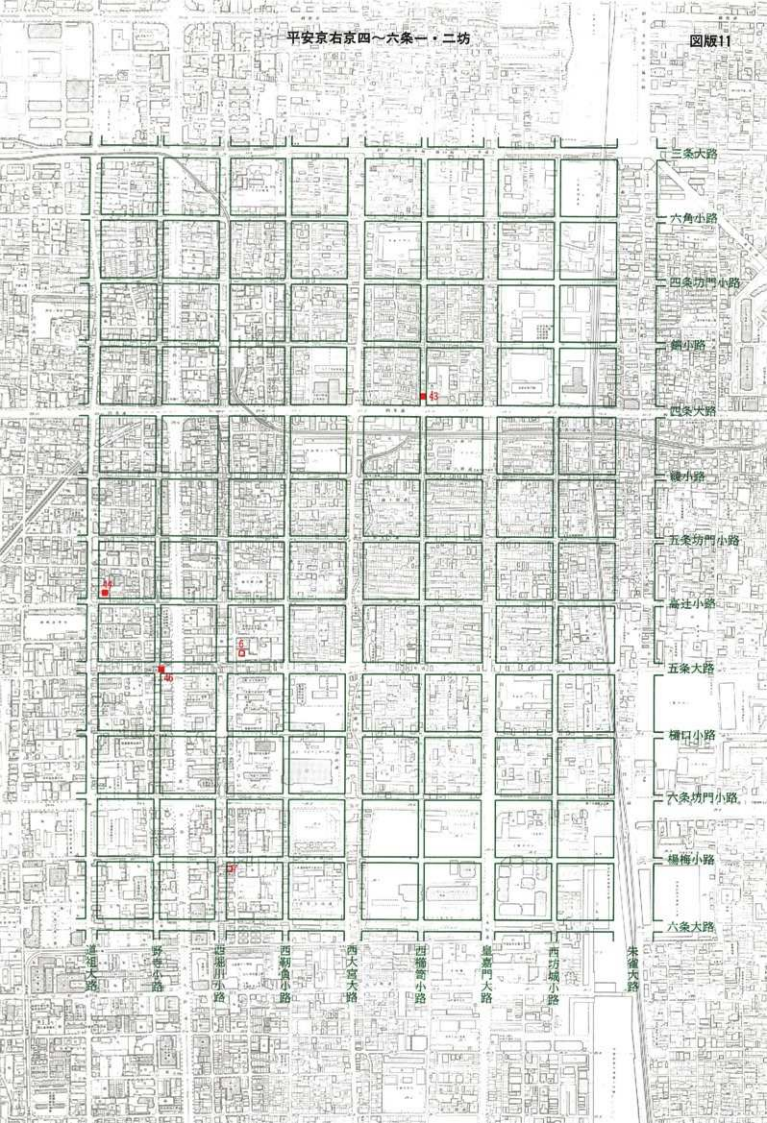
図版10

平安京右京四～六条三・四坊



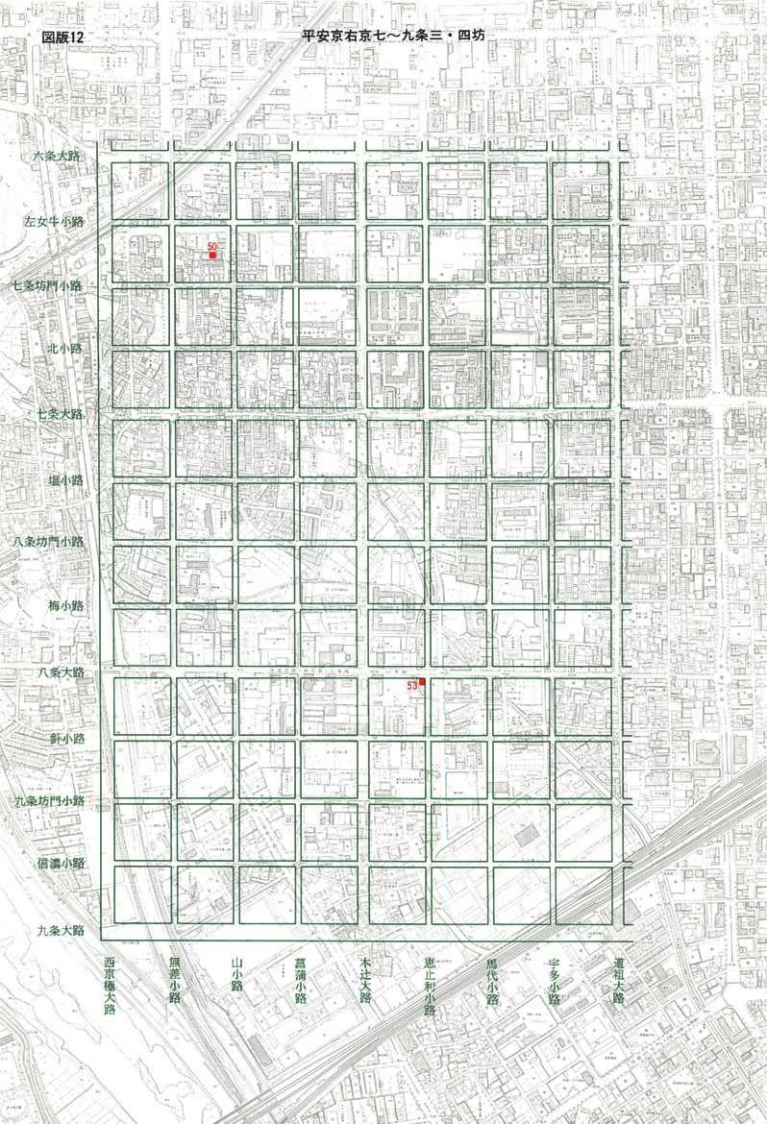
平安京右京四～六条一・二坊

図版11



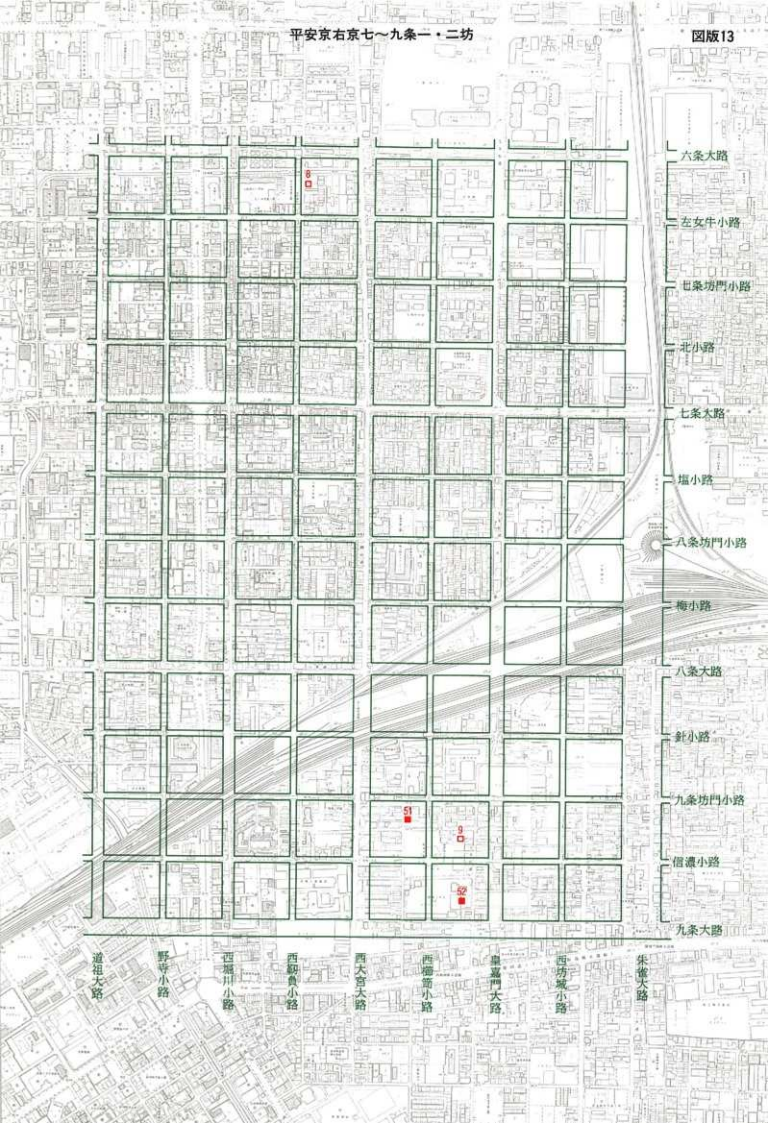
図版12

平安京右京七～九条三・四坊



平安京右京七～九条一・二坊

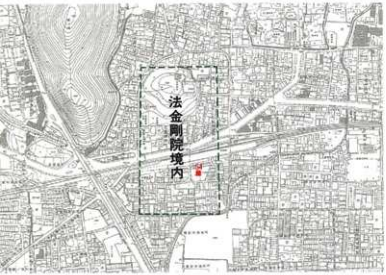
図版13



図版14

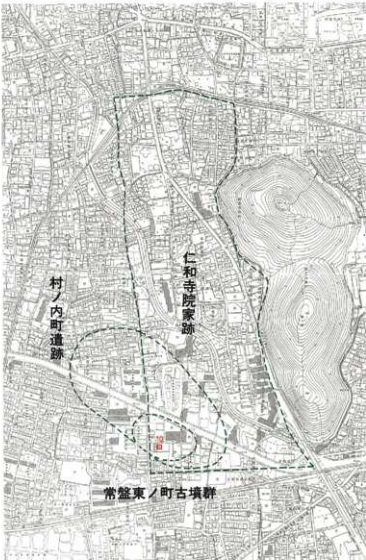
和泉式部町遺跡

門田町遺跡


法金剛院境内

常盤仲之町遺跡

史跡名勝嵐山


仁和寺院家跡
村ノ内町遺跡
常盤東ノ町古墳群

図版15

図版16

六勝寺跡

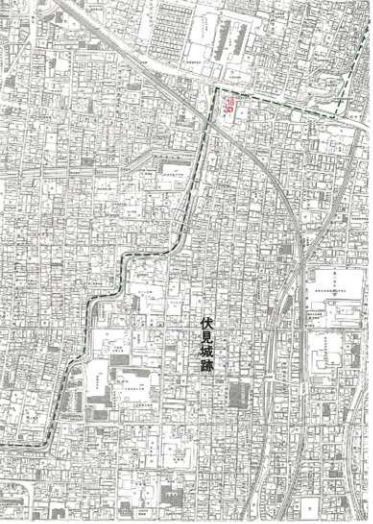
山科本願寺南殿跡

安朱遺跡

中臣遺跡

坂尻須恵器窯跡

大塚遺跡


伏見城跡

深草寺跡

史跡醍醐寺境内

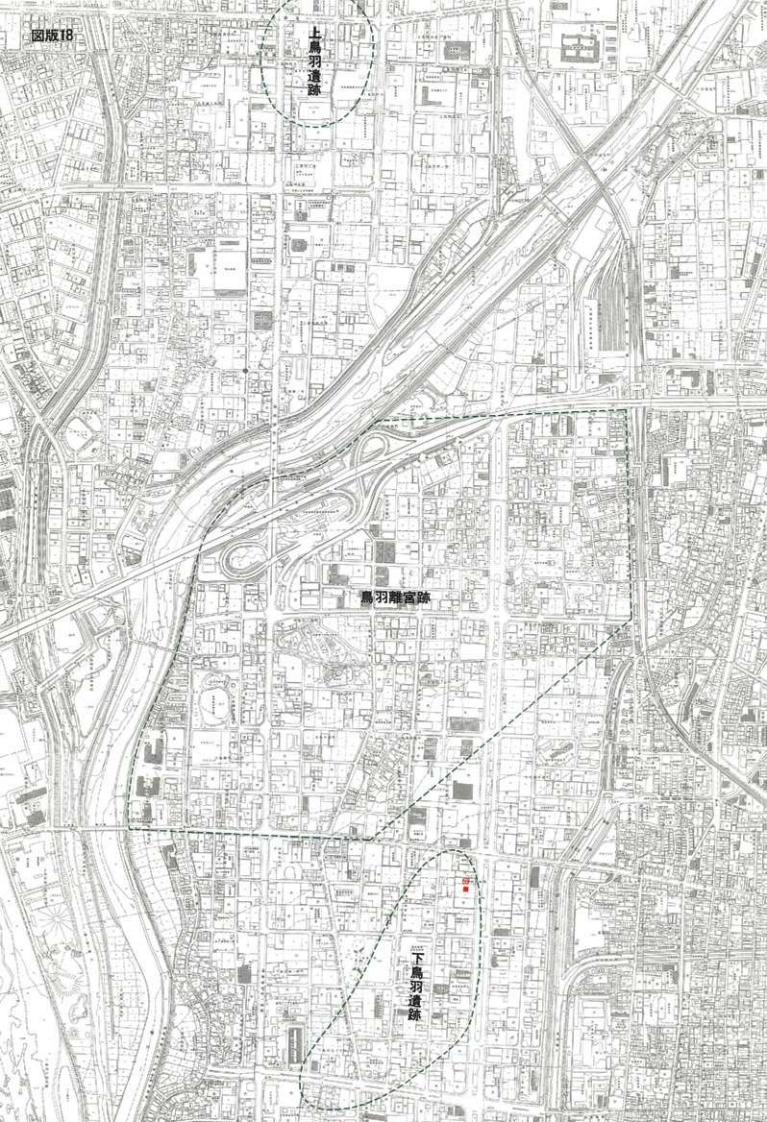
下津林遺跡

上久世遺跡

大藪遺跡

中久世遺跡

図版18



長岡京跡
西口

京都市内遺跡試掘調査概報

平成13年度

発行日　2002年３月31日
発　行　京都市文化市民局
編　集　京都市埋蔵文化財調査センター
住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
TEL.（075）441-5261
印　刷　株式会社エッグズ　TEL.（075）595-0241